# 松屋外集

二編一、二

835
20
4

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4

ガラス使用

835-4

# 松屋外集二編巻之一

目録

崇光院
光嚴院
天下みだれて
宮方武家和睦　本院新院主上春宮南山御還幸
光明院
還幸
賀名生御還幸
落飾

大正
8.11.24
謄寫

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

東宮
直仁親王　春宮坊（ミヤノツカサ）
春の宮　職曹司
継躰
前坊（ゼンボウ）
将軍
足利義滿公軍　征夷使　捧物（サゲモノ）　坊官　儲君
御譲國（オンジヤウコク）
譲位　譲國　退位
即位　受禅　践祚
遜位　脱屣

卑員（ヒイキ）
微望（ビバウ）
陽禄門院
閑素（カンソ）
禅律の御戒師
田植（タウエ）
田楽（デンガク）
国衙（コクガ）
国領（コクリヤウ）　領　庄園　本所　庄司　目代
牢籠（ラウロウ）

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

登極（トウキョク）
有名無實
田禄
准后（ジュゴウ）
准三后
常磐井、相國
西園寺實氏公　相国
三、船
准據（ジュンキョ）
大樹（タイジュ）

足利義持卿軍
御座あるべき所あるいて
栄仁親王　宝厳院
狭少（セマシ）
周高西堂（シュウカウサイタウ）
西堂　東堂　禅家の職名
清暑堂の神宴
神宴　御神楽
貞成（サダナリ）
後崇光院貞成親王

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

禁保（キンパウ）の時
むつき、
障碍（シャウゲ）
負外の矛（ほこ）まて
義量（ヨシカズ）
仙洞
後小松院
逆鱗（ゲキリン）
内府（ダイフ）
内大臣三大臣

逐電（チクテン）
宮門方
後花園院
按察殿（アゼチドノ）
按察使　庭田重有卿
いー
己次（イシ）大臣
管領（クワンレイ）
斯波義淳　殿上管領
觸穢（ショクエ）

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

院の御猶子
猶子　猶子茅　猶父　猶母　母代
口遊
口あそび　口弾
隠士の家
隠居
南方の御教反
小倉宮尊仁親王
競望の宮
教尊権僧正　競望

松屋外集二編巻之一
華頂殿侍倭學士平小山田與清稿
扶桑拾葉集抄巻茅十九椿葉記上

崇光院
一丁表
絕運錄ヨ、茅九十六光嚴院、茅一、御子茅九十八
崇光院、諱興仁本、名益仁養母、徽安門院、實陽祿
門院主條内大臣公秀女、建武元四、廿二降誕、五、
八、八立親王、同、十三立太子、五、貞和四、十、廿七踐祚、
祚、十五、同、五、十二、廿六即位、觀應二、十一、七奉廢
帝位、未被行御禊大嘗會等、武將奉和睦南方、君申行之故也、同十二、廿三被

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

渡内侍所并神璽於南方同廿八被奉尊号十八、
同三月二廿依南方新主天氣渡御八幡軍陣、両上
皇光嚴光明御同車云々、延文二、二、十八奉伴太上法皇出南
山御座、幸伏見仙居、明徳三、十一晦御落飾、法諱ハ
勝圓心應永五、正、十三崩六十五云々、續神皇正統
記ハ第九十九代崇光院、諱興仁、益後改興光嚴院第
一皇子、御母陽祿門院、内大臣公秀女也、己丑の
年即位、庚寅改元觀應と、南風のき尓ひふよ
りて、同二年八月、俄内裏土御門殿より、持明院
殿へ行幸云々、南朝御合体、武家よりの行ハる、
もま有て、元弘天下一統のごく、毎事聖断たら
べきよ治定して、南朝の年号正平六年を用
られ、官位も同南主乃御まゝならひふで成行る、
三種神器も、南方頭中將興忠朝臣上洛して請
取まゐり、於名生山中ハ渡御なり、依て於南朝、尊
号を献ぜらるゝ云々、同三年閏二月、八幡ハ幸に、
両院光嚴光明をも被伴申あさましかりしなから
も、延文二年二月十八日、伏見ノ仙居ハうつり
給ひ、明徳ハ御落餝、六十五ましおはしまし云
々、皇代記ハ當今諱興仁光嚴院第一皇子、御母徽安門

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

院云々、歴代皇記ヨ、崇光院、一院第一皇子、御母、
従三位秀子、前権大納言藤原公秀女、
准母、徽安門院、建武元
年四月廿二日降誕、同五年八月八日為親王、五、
同十三日立太子、貞和四年十月廿一日践祚、十
五、同日先、御元服、アリ同五年十二月廿六日御即
位、観應三年十月十一日廃之、同十二月廿八日
太上天皇尊号アリ云々、妣曼院某代記ヨ、第九十
九代崇光院、諱興仁、光厳第一子云々、皇統略
記ヨ、崇光院諱興仁、本名、光厳院第一皇子、養母、
徽安門院、花園院皇女、實母、従三位秀子、入道前内大臣公秀女、
陽禄門院曼也、在位三年、但不被行大嘗會即楔大祀等、建武元
年戊甲四月廿二日誕生、五年八月為親王、今日著
袴、同十三日立太子、五、貞和四年十月廿七日践
祚、十五、同日先於清涼殿御元服、五年十二月廿
六日即位、十六、大政官廳観應二年十一月七日奉廃之、
武将和睦、賀名生、申行之、廃観應号、為正平六年、十二月廿三日被渡内
侍所并神璽於南方、同廿八日被奉太上天皇尊
号、於南方行宮宣下云由、翌年正月三日被告申、御年十八
依新主天氣渡御八幡、軍陣、而上皇御車云々、三月三日
奉移河州東條延文二年二月十八日奉伴太上

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

法皇御出山占居於伏見殿明徳三年十一月晦
日於伏見殿御出家、五十九、法諱勝円心、先年先
光厳院御師、道号空谷、名明應、應永五年戊寅正月十三日崩于伏見、
御荘春秋六十九、号崇光院、遺勅云、此院乃御子、太平記、南
朝記、佛櫻雲記、拾芥抄、新櫻和漢合璧下、皇和真
俗通、本朝諡号雑記、ならびに見えたり、

光厳院（クワウゴンヰン）二丁裏

紹運録ニ、第九十六光厳院、諱量仁、母廣義門院、
公衡公女、正和二、七、九降誕、八、十七立親王、一、嘉暦元、
七、廿四立太子、十四、元徳元、十二、廿八元服、十七、
元弘元、九、廿践祚云々、正慶二、五、七、依天下乱、主
上并両院、御没落東国、此間為伯州、詔命奉退皇
位、同十二、十被献太上天皇尊号、一、観應三、閏
二、廿依南方主、天氣促仙駕、於八幡軍陣、両上皇、
崇光、春宮直仁、親王等、御同車、八月八日於河州、行宮御落飾、法、
諱勝光智、御戒師、西大寺、元耀上人、延文元於河
州離宮由良、覚明和尚奉令著禅衣、此時御諱上、
同二、二奉伴新院、出南方、幸伏見殿、貞治三、七、七、
崩於丹波国山国、五十以此間、御庵号被擬追号、
是依遺勅也云々、簾中抄人代の条ニ、今上、御いみふ

量仁、院第二御子、御母廣義門院、前左大臣公衡女　新院ノ
為ニ御子ニ践祚、元弘元年九月廿日即位、嘉暦元年
七月日云々、拾芥抄上、ま人皇部ヨ、九六光厳二作
正慶云々、続神皇正統記ヨ、第九十六代光厳院、諱、
量仁、後伏見院第一御子、御母廣義門院、入道左
大臣公衡の女也、壬申の年即位、改元して正慶
元年と云、同二年六月、後醍醐院御入洛の事ヨ
よりて、主上ハ御位を退き、東国の方へ幸ス、両
院をもとゞめ奉る、但程なく還幸、十二月
尊号宸献ぜらる云々、観應元年八幡ヨうつ
ゐ、又賀名生ヨ還御、河内のり吉ヨりて御落
飾、禅衣を著御、後ヨハ丹波ヨ山国ヨいふ所ニ
了御修行、五十二箇おもりまゐらせき云々、皇代記
ヨ、太上天皇、諱、量仁、後伏見院第一皇子、廣義門
院ニ治、二年ニ元、持明院、貞治三年甲辰七月八日、於ニ丹
州山国崩御、御歳五十二　首書ヨ、後深心院関白記
應安二年ニ云フ至ニ伏見ニ先ツ巡ル大光明寺ニ大
推大納言忠季卿画之ヲ云々、歴代皇記ヨ、太上天皇、後伏
見第一皇子、母廣義門院、正和二年七月五日降
誕、同年九月十七日立親王、嘉應三年七月廿四

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

日立太子、元徳元年十二月廿八日元服、十九、元弘元年九月廿日日践祚、廿一、同二年三月廿二日御即位官廳云々、正慶二年三月十二日、依天下乱、幸六波羅、五月七日赴東国、同廿五日以後廃帝王、一、嘉暦元年七月廿四日立太子、十四、元徳元年十二月廿八日元服云々、元弘元年辛未九月廿日癸巳践祚、十九云々、正慶二年五月七日、六波羅

城敗績、仲時等奉伴主上皇以下、赴東国、於江州番場、仲時時益等自殺、同十日遷御伊吹山太平護国寺、三主以下御逗留、暫以此所為御在所、両院以下又同御此寺、此間為伯州、詔命奉退皇位、元号又廃正慶二年、更復元弘三年、同七、八日、自江州還幸於京都、十二月十日、被献太上天皇尊号、御年廿三云々、観應二年閏二月廿日、依新主天氣、促仙蹕於八幡軍陣、両上皇、新院、并儲皇直仁五月十一日遷御於賀名生、離宮、是新主、官軍等、四ヶ所御同車、親王卿相雲客悉以供奉、是没落被奉伴之、八月八日於河州行宮御落餝、四十一、法諱勝光智、御戒師、西大寺光耀上人、延文元年月日於河州離宮由良覚

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

遠碧軒記、上巻、寺院部ニ丹波、国の常照寺ハ天龍寺、末寺ニ光厳院遺位の後出家シテ隠居の皇居ニ北ノ今寺領モ有シ光厳院皇即チ開山ニ日本国行脚ラサレシ時の頭陀袋ト今モ有云ヽ

明和尚奉ル令著ニ禅衣ヲ、此時御諱ノ上一字、被ル止ル之ヲ二年二月十八日、奉リ伴ヒ新院、出ニ御シ彼ノ離宮、幸ニ伏見殿、其後近辺別処、彼是御経行、ア貞治三年甲辰七月七日、崩ニ御シ丹波国山国ニ春秋十二、天下諒闇、以ニ此間御庵号ヲ被ル擬ス追号ニ奉ル号ニ光厳院ト、是依テ遺勅ニ也云ヽ、按ニ此院の御事、太平記、神明鏡、南朝記傳、纓雲記、如是院年代記、新撰和漢合冊下、皇和真俗通、本朝諡号雑記、等ニも見ヘ

天下みだれて二丁裏

太平記廿巻之 南朝与ニ義詮一ト和睦の条ニ、足利宰相中将義詮朝臣ハ、将軍鎌倉へ下り給ヒシ時、京都守護ノ為ニ残サレオハシケルが、関東ノ合戦ノ左右ハイマダ聞エズ、京都ハ以ノ外ニ無勢ナリ、角テハ如何様和田楠ニ寄ラレテ、云甲斐ナク京ヲ落サレヌトオボシケレバ、一旦事ヲ謀テ、姑ク洛中ヲ去為ナラシメン為ニ、吉野殿へ使者ヲ立テ、自今以後ハ、御治世ノ御事ト、国衙郷保、并ニ本家領家、年来進止ノ地ニ於テハ、武家一向其イロヒヲ止ムベキニテ候、只累久以後、新補ノ率法、并ニ国々ノ守護職、地頭、

御家人ノ所帯ヲ、武家ノ成敗ニ許サレテ、君臣和睦ノ恩恵ヲ施サレ候バ、武臣七徳ノ干戈ヲ戢テ、聖主万歳ノ宝祚ヲ仰奉ルベシト、頻ニ奏聞ヲゾ経ラレケル、是ニ依テ諸卿僉議有テ、先々直義入道和睦ノ由ヲ申テ、言ノ下ニ変ジヌ、是モ亦偽テ申ス條、子細ナク覚ユレ共、謀ノ一途タレバ、先義詮ガ申旨ニ任セラレ、帝都還幸ノ儀ヲ催シテ後ニ、義詮ヲバ畿内近国ノ勢ヲ以テ對治シ、尊氏ヲバ義貞ガ子共ニ仰附テ追罰セラレンニ、何ノ仔細カ有ベキトテ、御問荅再往ニモ及バズ、御合体ノ事子細アラジトゾ仰出サレケル、両方互ニ偽リ給ヘル趣、誰カハ知ベキナレバ、此間持明殿ノ方ニ拝趨セラレケル諸卿、皆賀名生殿ヘ参ラル云々、又両院主上遷幸吉野ノ条々ハ、二十三日、中院中将具忠ヲ勅使ニテ、都ノ内裏ニオハシマス三種ノ神器ヲ、吉野ノ主上ヘ渡シ奉ル、是ハ先帝山門ヨリ武家ヘ御出シ有シ時、アリモアラヌ物ヲ取替テ、持明院殿ヘ渡サレタリシ物ナレバトテ、璽ノ御箱ヲバ棄ラレ、宝剣ト内侍所トヲ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

バ、近習ノ雲客ニ下サレテ、衛府ノ太刀装束ノ
鏡ニゾ成サレケル云々、同廿七日、北畠右衛門
督顕能、兵五百余騎ヲ率シテ、持明院殿ヘ参リ、
先其辺ノ辻々門々ヲ固メサセケレバ、スハヤ
武士ドモガ参リテ、院内(ウチ)ヲモ失ヒ進ラセントス
ルハトテ、女院皇后御心ヲ迷ハシテ伏シ沈
マセ給ヒ、内侍上童上臈女房ナドハ、行末モシ
ラズ逃(ニゲ)フタメイテ、此彼ニサマヨフサレドモ
顕能卿、穏ニ西ノ小門ヨリ参リテ、四条大納言
隆蔭卿ヲ以テ、世ノ静リ候ハン程ハ、皇居ヲ南
山ニ移シ進ラスベシトノ勅諚ニテ候ト、奏セ
ラレケレバ、両院主上東宮アキレサセ給ヘル
計ニテ、兎角ノ御言ニモ及ハズ、只御涙ニノミ
シホレサセ給ヒテ、羅穀ノ御袂シボル計ニ成
ニケリ云々、御車ヲ二両差寄セ、餘リニ時刻移
リ候ト急ケバ、本院、光厳院(ヲ)、新院光明院(ヲ)、主上光
院(ヲ)、春宮、直仁親王(ヲ)御同車有テ、南ノ門ヨリ出御
ナル云々、鳥羽迄御幸成タレバ、夜ハ早ホノ〴〵
明ハテヌ、此ニテ御車ヲ駐テ、怪シゲナル細代
輿ニ召替サセ進ラセ、日ヲ経テ、吉野ノ奥賀名

生ト云所ヘ御幸ナシ奉ル云々、皇年代略記ヨ、
崇光院、觀應二年十一月七日奉廃之、武将和睦ノ
申ニ行之廃ニ觀應ヨリ
為ス正平六年、十二月廿三日被渡内侍所并
神璽於南方ニ同廿八日被奉太上天皇尊号云々、
吉野拾遺ヨ、正平壬辰の年の春、旧都の主上本
院新院、さらハ迚人とをふらせおひて、武山ハい
らせのへるゝ黒木の御所のあさましきふ、所
々を篠てきびしくかこひをきて、於其外ハ
辣枳棘ひまふく柱うえ
ヨ只る日もいとすゝろ桜より外ヨ歩慰もふ
のうけるや、中納言何の、
あるせもよや吉野の山桜宿ものそてのさゝふ
もせん、と奏しおひふけるふ云々、此時の事園大
暦、祇園執行日記抄、東寺長者補任、紹運録、あど
ふも出て、觀應二年十一月七日を正平六年と、太平
記の日時ハ誤りて、南朝ハ後村上天皇の朝ヨ
て、正平六年之、

光明院（クワウミヤウヰン）二丁裏

紹運録ヨ光明院諱豊仁治、十二年、母為光厳院
御猶子元享元、十二、廿三、降誕同二、二、十三親王

二建武三、八、十五践祚十六云々同四、十二、廿八
即位貞和四、十、廿七禪位廿八十一、廿五尊号(アリ)観
應二、十二、廿八俄御落餝(三十一)法諱真常憲云々
文和四、八、八自河州東條行宮出御伏見殿其後
御(ス)保安寺(ニ)自(リ)去年(ニ)著黒衣(其後所々御経行唐暦
(ニ)御持斎云々)二、六、廿四崩(ス)於勝尾寺(ニ)御草庵(春秋七十日未奉
(ニ)改此号(ヲ)不(レ)可(レ)及(ニ)別(ニ)諡(ニ)御遺勅(ニ)云々(号(ニ)光明院殿(ヲ)不(レ)可)
云々統神皇正統記ヨ第九十
八代光明院諱豊仁後伏見院第二御子光厳院の
御猶子也御母(ハ)廣義門院(ハ)丁丑の年(ニ)建武四年(ニ)即位
云々戊寅改元暦應々々又以前の延元号をハ
用られ(ス)建武号よりて暦應ゐハうつり給る
云々天下を治ぬる事十二年尊号例のごとく御
落餝ありて不久御俤(ハ)六十歳おまし(ハ)しき
云々皇代記ヨ新院諱豊仁後伏見院第二皇子
御母廣義門院治十二年建武三年八月十五日
践祚春秋十六観應二年十一月廿九日御落餝(御法名真
浄慧云々)暦代皇記ヨ光明院後伏見第一皇子太
上法皇為子母廣義門院元應三年十二月廿三
日降誕元亨二年二月十二日立親王(ニ)建武三
年正月五日践祚十六(四年二月廿八日御即位廳官

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

十
貞和四年十月廿七日禪位同十一月廿八日
為二太上天皇一云々皇年代略記ヨ光明院諱豊仁
後伏見院第二皇子上皇御猶子母同二太上天皇一
在位十二年元亨元年十二月廿三日誕生元亨
二年戊戌二月十三日立親王二建武三丙子八月十
五日子戊践祚十七四年十二月廿八日甲午即位十八
大政官廳貞和四年十月廿七日禪二位一於皇太子一十一
月廿五日太上天皇尊号アリ世一御菩提心云々法諱八
廿八日俄二以テ御落飾アリ世一観應二年十二月
寂上人 是日於二賀名生宮一被レ宣下太上天皇尊号一云
々三年閏二月廿日渡二御八幡軍陣一上皇御
三日自リ二八幡一遷二御河内国東條城一文和四年八月
四日自リ二河州東條一行宮出御アリ伏見殿一此間令レ著レ禪
衣一給御授レ覚明上人其後遷二御當所法安寺一自去年月
日御著二御黒衣一御持斎云々所々御経行康暦二年庚申六月廿四
日子刻崩ス六十一於二勝尾一御草奄奉レ号二光明院一日来奉レ号
遺勅不レ改二其号一云々此外園大歴太平記難太平記南朝
傳楓雲記拾芥抄如是院年代記新撰和漢合冊
下本朝諡号難記ふりかな云天皇の御子足ら

遷幸（センカウ）三丁裏

園大暦正平七年閏二月廿一日の条ゝ藏人右
衛門権佐光資為勅使（ト）入来予（ニ）謁（スル）之（ニ）所詮御所々
々可幸（スル）八幡（ニ）之由也仍（テ）即傳（ヘ）申（シ）仙洞（ニ）畢（ヌ）御書進（ル）之
上光資示畢（ヌ）趣又申入畢（ヌル）只今御車以下毎（ニ）用意
予進（レ）之（ヲ）由沙汰（アリ）云ゝ日没程（ニ）出御于（ヒ）時微雨御供（ハ）
教言朝臣（ニ）北面康兼許（ニ）也後（ニ）聞（ク）實音朝臣又依（テ）
仰（ニ）参向（ト）云ゝ二十二日の条ゝ予が牛童古法丸
未（タ）云（ク）御幸去夜逗留（アリ）東寺（ニ）今朝出（テ）御幸（ス）八幡（ニ）去夜
今朝毎（シ）（ニ）供御用意仍（テ）自（リ）仙洞女房沙汰進（ラス）之（ヲ）云ゝ
三月四日の条ゝ聞（ク）昨日江州已（ニ）襲来八幡（ニ）之由
就（テ）其騒動（ニ）三院（ヲ）并（ニ）宮御方被（ル）奉（ラ）移（シ）（ニ）東條（ニ）又梶井尊
胤親王去比被（ル）参同被（ル）渡彼辺（ニ）而此風聞虚説（ナリ）
義詮以下引退不知（ニ）行方（ヲ）云ゝ大炊御門元大納
言氏忠卿未謁（スル）之去夜上皇已下幸（ス）東條（ニ）御輿供
奉人實音朝臣也教言朝臣自（リ）内裏不（ル）可（カラ）参（ル）之旨
被（ル）仰仍（テ）上北面範康舎弟範之相（ヒ）副（フ）御輿梶井宮
垂髪一両人坊官一人同（シ）歩行（シテ）相従（フ）云ゝ六月二
日の条ゝ或（ル）人云（ク）上皇等東條御座之間陪従之仁
不幾（ナラ）仍（テ）女房可（キ）（ニ）参候（スル）之旨有（リ）（ニ）沙汰明日ゟ可（キ）（ニ）参

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

向由支度之處今日可被奉遷二賀名生之旨被申
云々十五日の条は聞女房等依召參二賀名生仙洞御方々各〻人上皇御方新院御方中納言典侍
隆蔭卿妹実明卿女等今日參入云々時の
東寺長者補任祇園執行日記抄太平記世之巻
両院主上遷幸吉野の段あらまし
〇遷幸は故實拾要六之巻是天子御徒
移アルヲ云フ也云々晋書天文志下は永嘉三
年正月庚子熒惑犯紫微占曰當有野死之王又
為火焼宮是時大史令高堂奏来輿洹遷幸不然
以無洛陽云々

落飾 ラクシヨク 三丁表

続日本後記廿之巻嘉祥三年は是日天皇落飾
入道誓受清戒云々右記は落飾之事以十七若
十九可定其年限也云々慈恩傳九の巻は玄奘
出自九品夙勲行業既蒙落飾云々三丁表 法
師既荷茲聖澤奉表詣闕陣謝曰云々伏惟皇帝
陛下寶圖御極金輪乗正曉茲釋教載懐宣闕以
為落飾云門外異流俗云々十五丁表竊尋覆護

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

之重在禄所先解脱之因落飾云々又同丁寄紹
隆北盤石落飾於天人啓云々ふと見へて俗飾
を落して出家ひるおとこ
とう宮三丁表

東宮は直仁親王を申し紹運録は花園院第一
御子直仁親王擬光厳院皇子皇太子観應二廃ス
之出家云々官職難義は直仁親王の大
乱は南方へ執奉事にて前
ひしてを前坊を申てを前
前坊を申ハ此時也云々東宮式負令義解は

謂東宮太子之所居也云々集解は釈云太子謂
之東宮也跡云東宮ハ謂美子宮朱云太子之宮称
東宮也穴云御子宮在御所東故云東宮也伴云
四時氣自東発即春進此故為東宮春宮其義无
別也云々官職難義は当代の次は御位はの
せをるを春宮はおりさるゝ立坊節會
とて節会を行て定らるゝ押て春宮とハ申
さん当代の皇子にてをらるゝ又御子にてをる又他の
御流にても時によるをさん其内御器量を撰バ
当代の時ハ皇太子の時ハ皇太子と

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

中ニモ多ク皇子ト申ス例モ勿論ニ東宮
春宮同ジ
ナレドアラソノ下司ノ友ヲツキ
テ差別アリ傳皇太子傳又ハ学士東宮学士太
東宮傳ト云子師範也
記傳ノ儒者ナル時ニハ必東ノ字ヲ用也大夫亮進以
下ハ皆春宮ノ友ニ仍テ春ノ字ヲ用ル春宮坊ト云ノ
故ニ坊友トモ也云ニ故実拾要一ノ巻有職玉
ノ枝新野問答ニモアリ
トモ
おもに職原抄下ノ巻ニ東宮春宮是一ニ也然而傳学
士此ヲ為ス東宮官ト大夫以下為ス坊官ト古来如ク斯ノ云ニ
百寮訓要別注五ノ巻ニ東宮トハ皇太子ノ御幸
ニ皇子ノ内東宮ニ立玉フヲ云ヘキ定メアレバ先ツ

儲君ト云フアリテ他ノ皇子トハ殊ナル御儀
ニ其後東宮宣下アリテ別殿ヘ傳キ奉ル是ヲ
立坊ト云ニ云ニ継躰紀七年十月条ニ春宮ニコ
ヤヒツキノミコ云ニ敏達紀五年三月条ニ東宮ニ
コノミヤヒツキノミコマスケノキミ云ニ用
明紀元年正月条ニ東宮ミコノミヤマウケノミヤ
云ニ持統紀十一年二月条ニ東宮太傳ミコノミヤノ
オホキカミツキ云ニ春宮大夫ミコノミヤノ
ツカサノカミ云ニ古今雑下ニ
もきてゐけるをミヤはうへはうつら

けをこいつゝ和名抄官名部は坊職員令云ク春
宮坊美古乃美夜乃は春宮坊職曹司とも東宮
亘加佐云ゝ雅院とも前坊ともいへるを大内裏考證サ七の巻
は諸證を引て注したり東前坊は東宮の
りしより延長年中保明慶頼の両親王即早世不
吉の例ありはとて廃せられ崇光院貞和年中直
置たり有職問荅三の巻
仁親王光園院
皇子春宮、後立坊、儀式絶ユ云ゝ毛詩衛風

碩人章は東宮之妹云ゝ傳は注疏三の巻は東宮齊
太子也云ゝ疏は正義曰ク太子居ル東宮ヲ
表ス太子故ニ左傳ニ曰ク娶ルトハ東宮得臣カ之妹ヲ服虔ガ云ク得
臣齊ノ世子ノ名居ル東宮ニ是也云ク左傳注疏本三の巻は衛
莊公娶ル于齊ノ東宮得臣カ之妹ヲ曰ク莊姜ト云ゝ註は太
子不敢テ居正位ニ故ニ處ス東宮ニ云ゝ疏は得臣為太子ト
云ス常ニ處ルト東宮ニ者四時ハ東ヲ為シ春ト萬物成就スルヿ在リ
秋ト萬物成就スルヿ在リ西ニ以テ此ヲ居在リ西宮ニ太子常ニ處ル東宮ニ
也或ハ可據ル易象ニ西北ヲ為シ乾ト乾ハ為ス君父ト故ニ君在西東
方ハ震為ス長男ト故ニ太子在リト云ニ東也云ゝ又襄公九年穆姜薨ス

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

北東宮ニ杜預注ヨ太子宮也云ヽ呂氏春秋十八
審應篇ヨ魏昭王問テ北田訞ニ曰ク寡人之在ル東宮ニ之
時云ヽ離騒経文選六臣注本ノ巻ヨ溘スミヤカニ遊フ此春宮ニ云
ヽ王逸注ヨ春宮ハ東方青帝舎ニ云ヽ貞觀政要ノ
巻任賢篇ヨ太宗入ル春宮ニ注ヨ東宮也貞徳九年六月
太宗初テ為ル皇太子ニ云ヽ又ハ竹書記年下巻周穆
王九年公羊傳注疏本ノ巻十ヨリ東宮ハトノ名目
ある

継躰ケイタイ 三丁裏

史記外戚世家ヨ自リ古受シ命帝王及ヒ継ケイ體守ル文之
帝之正體ヲ而立ツ者ヘ也云ヽ文選六臣注本ノ巻ニ張衡カ西
京賦ヨ高祖創ル業ヲ継ケ體承ケ基ヲ云ヽ文選六臣注本ノ巻ニ善曰ク漢書
平當カ曰ク今漢継ケ體承ケ基三百餘年云ヽ翰カ曰ク高祖
創ル基ヲ雖ト勞メ令ム子孫ヲ継ケ躰以テ承ケ基阯ヲ云ヽ公羊傳
注疏本十一ノ巻ヨ継キ文王之體守ル文王ノ之法度ヲ云ヽ吐
外漢書郊祀志下巻同平當カ傳文選六臣注本ノ巻ニ左思カ
吳都賦ヨリ下ノ字面ニ白日本記十七ノ巻ヨ男大
迹トン天皇ノ漢様カラサマノ御諡オクリナヲ継體ト申奉リ
七ノ坊ボウ 三丁裏

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

萩原前坊直仁親王と其傳ふ
撰哀傷詞ある前坊うせぬひての春大輔なつの
ハしける源氏葵（湖月抄本ニ丁裏）六条の御息所の
物もら共前坊の妃なる花鳥餘情（三の巻）ある前
坊とハ東宮を辞退しのふ
のをハ坊とハ東宮を称ふる云く湖月抄ゐ
師説ゐ坊の内ゐ早世ぬ
文彦太子ふとめをハ前の春宮坊の心云く
大和物語（上の巻）ゐ前坊の君うせぬひなけ
大輔のきりふくかふくおほめをお思ゐふ云

ハ日本記略ゐ融院、天延元年四月廿五日の条
ゐ前坊、内舎ニ有リ、婬好甚撰テ了ル云く紹運要略ゐ保
明親王云く世以テ号ス前坊ト云く拾芥抄（中末諸院
部）ゐ雅院或ハ御曹司東宮坊、内東前坊、中御門北
匣東ヒ保明慶頼御ス此所ニ西前坊、中御門、北匣西ニ云
く宝積類書（ハの巻人品部）ゐ愚勘故禅閤辞シテ先坊
ヒ申べシゐ云く此義辞退
醍醐の御代東宮文彦太子明保
立坊又早世其後朱雀院立坊ヒ也云く

将軍（シャウグン）四丁表

足利義滿將軍之足利家官位記ヨ鹿苑院殿義
滿延文三年八月廿三日御誕生云〻應安元年
十二月廿日補征夷大將軍云〻應永元年十二
月十七日辭征夷大將軍讓任御息同廿五日任
太政大臣云〻同二年六月三日辭相国同廿日
御落飾廿八歳御法名道宥但後日被改道義ト御
号天山云〻同十五年五月六日御四寂一五十歳号鹿苑院殿云〻大日本
史百八十六の巻ハ將軍ハ征夷大將軍を
中ノ職原抄巻下ヨ征夷大將軍ハ
北日本武尊ヨ毎有兵事遣將師也粗見旧記云〻
愚按ニ鎮府者已有鎮將依之重遣將師之日臨
時加征夷号欤云〻推大納言右近衛大將源頼
朝卿辞両職帰東国之後有勅被任征夷大將軍
両来連綿云〻凡頼朝卿補之後依重征夷之任
不並任鎮府元弘以来被並任畢云〻三光院殿
礼節副將軍事の条ヨ凡將軍者有朝敵之時為追討一
旦被補之候尊氏依別忠永代可為將軍家之由
被仰出之後競望毎之者也云〻官職難義ヨ征
夷大將軍今將軍ハ是ヲ古ハ皆ヨハ是を任セ
防闕のあるヨよ除ヨよらるゝ也云〻

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

又云ふ軍も武勇ありてあるべき
分一は出ふるお声のさるまも及ばめこさる
けものみて分一のかうな出ハ摂政実白条
殘将軍義人施薬院使挨拶遣造も長史高埜使
ふとこその接勢のうちすても第議と将軍と
ハ将軍をまく出也假令征夷大将軍第議従四
位下守左近衛権中将弟時武家時位署ニ分ニ也
云く
御ふやうこく四丁表
故實拾要一の巻は譲位譲国退位遜位脱屣是皆
天子御位三種神器共ニ儲君へ譲り玉フヲ云
也云く海人藻芥上巻は即位受禅譲国譲践祚是
受御譲云即位給也云く代始和抄は父子譲国
の時ハ子ふる及父の命をいくべきを云
ふきふ依て義譲の字ハ云く又云御国も
りは天下の重き世のかぎめふるふまるめ
非をいまめんふ警固関をいふ
をまつ家前は行ハふこと云く空穂物語は国、
西つりの老も見えふ
顕倒四丁裏

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

源平盛衰記四の巻の白山神輿登山の条ゟ大衆昇
夏セラレバ訴訟争カ不レ達セ云々同十四の巻興福寺、
牒状ゟ所ゝ及ニ昇夏一寂可ニ相救一也云々同卅の巻覚明
語ニ山門一条ゟ平家安穏ノ祈リヲ改テ源氏昇夏
ノ心ニ任セラルヘキ哉云々太平記十三の巻西園
寺公宗謀反の条ゟ是ニ関東昇夏ノ奪恩ナリ云
々同十八の巻高野根来不レ和の条ゟ武家ヲ昇夏シ
テ公家ヲ背キ云々又比叡山閉門の条ゟ朝敵
ヲ昇夏セン心妻ジテ云々同廿一の巻佐々木道誉
流刑の条ゟ道誉ヲ昇夏セラレケル間云々庭

訓往来六月十一日状ゟ尋ニ捜同意昇夏ノ之従党ヲ云々又
八月七日状ゟ内奏昇夏窺ニ機嫌一可レ申ス之ヲ云々注抄大
巻廿八丁裏三行ゟ化シテ荷ヒ云々同の巻十二丁裏ゟ力ヲ
担ハ共ゟにふふそよむ俗ゟ昇夏ゐるをかゝ
くろそいふ色ゟ力ヲそふるゟ云々下学集下巻
畳字ゟ昇夏キツケテ著レ力扶ケル人ヲ之負云々以呂波字類
抄十五巻比ゟ昇夏キ又チカラオコシ云々節
用集比部言ゟ昇夏キ作スレ力ヲ皃云々運歩色葉集
比部ゟ昇夏キ云々文選六臣注本張衡カ西京賦ゟ
巨霊昇作スレ力ヲ之貌也云々又

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

同五
の巻 左思吳都ハ賦ヲ巨鷺ニ見テ首ニ冠雲山ヲ云ヽ品
字箋地聲茅ヲ一ニ曰ク昇ニ見ル作ルカ貌云ヽ水経注杜
甫カ集元稹カ集ヲトモ此字面ヲ
微ビ
望ボウ 五丁表

備用草案申文の条 正六位上古氏今歌ヲ望ム大和掾ノ
申文ヲ右去ル明應二年ノ給ニ二合ノ以テ古萬葉ヲ申任スル大
和掾ニ之処有テ障不ル賜ヲ戟符欲スルニ勤ニ此事ヲ無ク許遣ノ之便
空ク秩満適ヽ逢テ除ニ書之春ニ今得タリ微望ヲ節ヲ爰ニ萬葉年老テ
難シ堪ヘ道ニ請ヲ譲ニ同姓ニ然ル者ニ早ク以テ古今歌ヲ為シ尉ト萬葉ノ尉ヲ
可キ被ル改ニ任セ之状ヲ所請如シ件ノ明應六年三月廿三日

正二位権大納言藤原朝臣宣胤ヽ
望の字面ヲ微ハ字彙ヲ細ヽ也小ヽ也品字幾ノ集ル已
微ハ細ヽ也少ヽ也眇ヽ也廣韻ヲ細ヽ也望ハ品字幾ノ集ル已
諸仗ヲ冀望ヽスト注シテ細ヽ少ノ冀望ノ
陽ヤウ
祿ロク門モン院ヰン 五丁表

女院小傳ヲ陽祿門院藤子 秀
當今ノ母正二位大宰
権帥公秀ノ女母ハ 建武三、十一、廿五ヲ為ス典侍ニ同
四ノ三ノ廿九ニ叙ス従三位ニ文和元、十ノ廿九ニ准ス三宮ニ四十
同日同年十一、十二ニ御出家ス依テ日来御悩ニ也同廿八日御
事アリ云ヽ貴女ハ陽祿門院秀子ト云ヽ文和元十
廿七院号ヲ光厳

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

妃崇光後光厳、御母ニテ公秀公女、女院記ニ陽禄門院子崇光後光厳院、母前内大臣公秀、女文和元年十一廿八崩ス云々

閑カ素五丁裏

閑素、閑空ノ如ク閑静寂寥ノ意ト詩、魏風注疏本巻伐檀章、傳ニ素、空也云々、論衡十二ノ巻ニ廣雅釈詁三ニ素、空也云々、論衡量知篇ニ所謂、仏伍素飡者也、素者空也、空虚無徳飡人之禄故曰素飡ト云々、品字哉集ニ素、又猶空也云々、易、象下傳、定公十二年、左傳注諸葛豊傳、注後漢書、陣龜カ傳、注後漢書楊惲カ傳、注朱雲カ傳、注謝弼傳、注ふとも皆ニ莊子刻意篇ニ故ト云ハ素也者謂ニ其無ニ所ニ与ニ雑ル也トあるも閑素の義ヲとりいふべし、周書四十二ノ巻ニ柳霞カ傳ニ有リ十子ノ靖荘最知ル名ヲ云々、靖雅達ス政事ニ所居皆有リ治術吏民畏テ而愛スル之ヲ然レ性愛シ閑素ヲ其ノ北ル名利ニ澹如タリ也云々、沈約カ反舌鳥賦ニ倦ミ城守之諠疲ル愛ス田郊之閑素ヲ云々、淮南子、本経訓ニ質真ヲ而素ニ樸ニ閑静ニ而不ル踪ニ云々、高誘カ注ニ素樸猶不ル散ル閑静ニ言ヒ無ク欲ヲ也云々、以呂波字類抄三ノ巻部畳字門ニ閑素カシ云々、節用集加部言ニ閑素カシ云々、

禅律ノ御戒師五丁裏

鹿苑院は臨済(リンザイ)流の禅(セン)宗(シウ)にて院主常光国師は
持律の僧ゆゑ必ず禅律といへども戒師
をえて御受戒ありし故禅律の御戒師その先例
もあゆゑ必ずさるべきいへども
(タ)田(ウエ)柱六丁表
百練抄崇徳大治二年四月の条に両院臨幸鳥羽殿有田殖
興云々又同三年五十日の条に両院幸八条宮水閣有田
殖事云々栄花物語御着裳の巻に賀茂の祭ふ
そもゆゑ五月を始め大宮出御門殿をおの
ま也ば殿の御前ある所ぞ我しも残りて御覧せさも
んとお思しめしてにや此殿の御まわりの田
ハ殿のおたてたりせうゆゑおのもとふぶうゆゑ
此比うゑべりけゆゑ必ず御厩(ウマヤ)の司(ツカサ)をえて此田
うゑん日ハ例のありきまゆゑ
ゆもふくてお残こおまうゐのもあるの
まゝおて此事のむま場(バ)の御門(カド)よりあ
こはいおせて塀(ヘイ)のうちよりとりこさま
ふ波にべし丑寅方のほいお残しそれ
よう御覧しやるべきふう事のお残すてあん御
らんじへきと仰(オホセ)あそうけらまひて今二三日

の図どふあるとさせんとおもひてそめ日ふ
ふるてかのひこのほいちらづさせひて東
の對ふ大宮の御前ぜをめきりて殿のうへ
にさうせ殊ふきるへきくふ女房こちさふら
ふかきりハまあるさて御らんじまハちかう
きふふけあき女そもる白人ぞりふ裳袴と
いふ物いとふろうきせ白き笠ともきせて
遣くろめ馬らのふほけてべあめうけさう
せさもてぼけことたり田あるといふ箱
いとあやしきあきやうふる大ぎさせ

了刻ときて足ちはきこうあやしきさまて
る女そもかいわりきせふよといふ物も
うちけ化粧してそれもかきさふさせ見太も
あせう又田楽といひてあやしきやうふる
皷腰よもひつけて笛ふき佐ら良といふ物つ
きさまくの舞してあやしきのをものおそもらふ
うこひんちよけふ田こうてて十人もりあり
その中ふ田皷といふもものハ例のはつをふ
も似ぬおそてこ田くそふらしめる
犯しうものいこまふ板系の簀子

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

ふ若公達四位五位あそ
ばす兄興一ぬふ又いと大きふる桶折櫃そも
ふこさらかくひおそも弐へしもてつけは
れバいみーう免ぼらーう時境にさていき
ぞひて今ハ柿のーるを時境しやうていと
残おーうお田免そるあうぼるかくのもの
そもたの田と保ーまーばげふ思ひそ保るか
ーこみそハ我まふ物をしてーりあそびか
ふでらるさまそもいみーう残すおーりこ
そあれ雨にこふりて田子のこともとそも

之田とげこういへの田そよの末あつまりそ
ん世人おびそらんふみ立てゐる田そもさ
へそ残すーう時らんーらぬけるに田人そも
のうふふうふ体きこめセバ
きみこれふもにそぬうしてうる田残君
の手筆のこまくさふせん又きこ免セバ
うつるようかにもそらき大空残倉まそ
はまん兄まくさの稲そそうこふもきんぼく
り出こうけきバ兄まやの団の心ぞんを取原
いこふうけようせさたをめ房

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

さかへうつる物うまもあく部伝そでの
田もとむくもいひくん又人
田とうぶ歌をふる音ふきこの田めど忘田
りもあくん田子の秋ハふとぞいひけるまも
てう時厩(こまや)の司(つかさ)めして時前のていこうきよ
うせさせおひてあのつけさせ珍ひくりあや
うふお田のこんてふく御んをやり興ある
ちあうさまともふう云く画巻流布列本まて
詞のまゝ残掛九巻ハ画
本ゆしうるこ伊勢貞丈(さだたけ)後院(ごいん)下巻ま田植(タウエ)田楽(デンガク)の畳くハしくそ田
伊勢貞丈後院下巻ま栄花(はな)御もきの巻を引て抽。

田楽といふ物ハ田植の時の楽ふる由そ田楽
と名付ふる古代の田楽のさま右のゞ田
楽ハ農人ぞらのせうさ歌ゞ太平記ま載
ふる田楽法師その家を当ゝ庭訓往ふゝ
云て一芸ふゝたるハ法のまこ京都の軍の
比もかの田楽法師の芸世ま
ハ式(しき)芸化国ま絶(タエ)ゆ迄ゝ春日の祭ま今
も於田楽法師の芸を行也彼輩大和国ま居住
ふるより少及ゝ武蔵国豊島郡王子村の王
子権現の祭七月十三日ま田楽あり外此ま

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

国衙（コクガ）
六丁表

国衙ハ国府といふがごとし国の役所之公衙（コウガ）歟（ケン）
衙官衙（ガ）などの字面漢籍（カラツク）もあり西廣韻は衙（ガ）府篇
海は衙、早晩衙集也品字義（ギ）も集（ツドフ）諸（モロ）は唐制天子居（ヲル）
曰（イハク）衙（ガ）行（ユク）曰（イハク）駕（ガ）今官府（クワンフ）亦（モ）曰（イハク）衙（ガ）行（ユク）云（イフ）制度通（ツウ）二（ニ）の巻
朝（テウ）の条（ジヤウ）は宝積類書六十五（ロクジフゴ）の巻殿舎部（デンシヤブ）のうち内（ウチ）朝外（ソト）
かあらん下学集天地門（テンチモン）も其説（ソノセツ）あるごとくに
衙（ガ）云（イフ）節用集古部（コブ）乾（イヌヰ）坤門（コンモン）も国衙（コクガ）は国衙諸国府（カ）謂（イヘル）之（コレヲ）
葉集古部（コブ）も国衙諸国府謂（イヘル）之（コレヲ）衙（ガ）云（イフ）運歩色
云（イフ）源平盛衰記

まゐたまふ（ママ）ハ甚尊卑（ソンピ）ともそ云（イフ）後深心院（ゴシンジンヰン）
関白（クワンパク）記（キ）あり六年五月（ゴグワツ）廿八日の条（ジヤウ）は新院（シンヰン）昨日密々（ミツミツ）幸（ミユキ）比叡山（ヒエイザン）
御覧（ゴラン）田殖（タウヘ）ヲ云（イフ）ハ吾妻鏡（アヅマカガミ）八の巻文治四年（ブンヂシネン）六月朔日（ロクグワツツイタチ）の条（ジヤウ）
姫公（キミ）御方山際（ヤマギハ）前栽（センサイ）被（ラル）殖（ウ）田（タ）ヲ美女等（ビヂヨラ）殖（ウ）之（ヲ）皆唱歌（シヤウカ）ス
壮士中被（ラル）召出（メシイダサ）有（ル）雑芸（ザツゲイ）之輩（ヤカラ）為（ス）事（コト）笛鼓（テキコ）曲（キヨク）ヲ云（イフ）ふ
と田植（タウヱ）の不足（フソク）これあれおほ（ママ）明月記（メイゲツキ）正治（シヤウヂ）二年（ニネン）
月（グワツ）十六日（ジフロクニチ）の条（ジヤウ）は両頭座分（リヤウトウザブン）草合（クサアハセ）十番（ジフバン）許（バカリ）ヲ記（キ）テ又自（ヨリ）西方種
々雑遊（ザフイウ）千寿万歳（センズマンザイ）ヤスライ舞（マヒ）ハナ師子（シヽ）東頭（アヅマガシラ）弁田（ベンデン）
楽田殖（ガクタウヘ）王乃舞（ワウノマヒ）以上イサタメ止（ヤム）天退出（テンタイシユツ）云（イフ）ト
此文字誤（モジアヤマリ）あるにて
讀解（ヨミトキ）あり

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4

ガラス使用

廿二の巻大場早馬立条は此旨定自国衙被注進欤
云々同廿八の巻役行者条は西海運上ノ米穀国衙
庄園ヲ云ハズ兵粮米タメ
云々同廿四の巻木曽擬与平家条は神領寺領押領
ノ国衙庄園牢籠セリ云々同廿八の巻重国花方帯ノ
院宣ヲ西国下向条は云国衙云庄園毎立針之士
地虜掠之ヲ云々同四十一の巻被行大嘗會ヲ条は国衙
庄園モ正税官物ノ所済ナケレハ云々同四十六の
巻土佐房上洛条は不論国衙庄園可備調庸之
由云々長門本平家物語十九の巻北条四郎時政上
洛条は天下ちつまるうへハ諸国は守護人を
置庄園は地頭をすゑて国衙庄保をいまゝ別
をあて十一町は一町の給田をさまる云
々大平記十七の巻山門牒南都条は江州ノ領所分
三百余箇所ヲ行ハレテ當国国衙ヲ山門永代
管領スヘキ由宣旨ヲ成レテ云々同廿四の巻朝儀
年中行事条は国衙庄園モ本所ノ知行ナラズ
正税官物モ運送ノ煩有テ公家ハ日ヲ逐テ狼
戻セシカバ云々同廿の巻南朝与義詮仲和睦
条は御治世ノ御ヲト国衙ノ郷保并ニ本家領

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

永年来進止ノ地ニ於テハ武家一向其イロヒヲ止ヘキニテ候云々愚記四巻の朝儀年中行事条ヲ四国北国ノ宮方漸七ヶ国ノ民今ハ国衙庄園モ公家ノ物知行ニナリ正税官物モ運送ノ煩アラシト悦ビ合ヘル処也云々ある我あうかゝるを国衙は往古の国府のあとまて公家御領の名こまさハ国領ともいつゝさゝれど国領ハ地ヲ据さる名目国衙ハ府ヲよゝさる名目ありまいひあらへるこ玉海文治元年十一月十二日の条

ヲ院宣ニ備ヘ云々至于国領者任此状令遵行於庄園者觸本所致沙汰ヲ支云々真言傳七の巻覚鍐上人傳ヲ多ノ国領ヲ庄ト号シテ是ヲ寄進セラル云々江家次第十二の巻公卿ヲ下桶小川ヲ戒云ノ条ヲ停鈴声ヲ注ヲ神領与国領之異也云ふやも足えてう大ふる山領といひ小ふる庄園といふ庄園の主を本所といひ三内口訣ヲ本ふトハ諸家堂上之衆皆一同ニ本所ト称候ト足ヲ代官を庄司ヲいふ公の御領ヲ国衙国領といひ代官を目代ヲいふその上ヲ奉行ある今世の御預ホヲ公ヲ(オホヤケ)ふら

てふも徳宗領寺領社領あ
ゝふ領と〳〵所謂領家
いふさゝめと古書ゟ寺家、政
私友のこゝも限られ寺中の役所を
ゝ
牢籠（ラウロウ）六丁表
以呂波字類抄五の巻衣部畳字門ゟ牢籠ラウロウ云〳〵節用集衣部言辞門ゟ牢籠ラウロウ云〳〵同太平記音義下巻廿九丁裏ゟ牢籠ラウロウ云〳〵運歩色葉集羅部ゟ牢籠ラウロウ云〳〵吾妻鏡一の巻四十五丁裏ゟ山本兵衛尉義経云〳〵依テ平家之謫ニ去安元二年十二月廿日配流佐渡国ニ去年適預ルニ于勅免ニ之処今又依テ彼攻ニ牢籠ス云〳〵去年冬於テ安房国ニ主人衆詫罰之間従類悉ク以テ牢籠ス云〳〵源平盛衰記廿四の巻木曽ゟ神領寺領押領シテ国衙庄園牢籠せり云〳〵淮南本経訓ゟ牢籠天地ニ弾圧ス山川ヲ云〳〵注ゟ牢、讀屋霤之霤ニ楚人謂ヲ牢ヲ曰ヒ霤ト云〳〵後漢書馬融傳廣成頌ゟ梟牢ス陵山ニ云〳〵注ゟ梟牢、猶牢籠也孫卿子ニ曰梟

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

牢(ノ)天下(ヲ)而制(スルヿヲ)之若(シ)制(スルカ)子孫(ノ)也諸本有(ルハ下)作(ルニ)牢柵(ニ)者非(ニ)
也云〻品字義(丁集ノ)詔(ヲ)誥(ト)ヨ皐牢猶(ノ)言(ノ)牢籠(ノ)子孫(ニ)皐牢
天下(ヲ)云〻慈恩傳(ノ二ノ巻ロ五丁裏)逐(ヒ)絶而報(シ)兄讐(ヲ)牢籠
印度(ノ)風所(ノ)及礼教所(ノ)霑(ス)不(ノ)帰徳云〻又(ノ八ノ巻ニ
丁裏)理(ハ)則(チ)包(ニ)括(シ)於三乗(ノ)事乃牢(ニ)籠(ス)於百法(ニ)云〻又(ノ九ノ
巻ニ丁表ニ)鎔範(シ)四天牢(ニ)籠(ス)三界云〻又(同巻廿五丁表)我(カ)后牢
籠伊咸並(ニ)建云〻按ヨ正字通(ニ)集(ノ下ノ)部ヨ牢又(ヘ)尤(ノ)
韻音樓(ロウ)易林(ニ)失(ト)志懐(ノ)憂(ノ)如(コ)幽(セルカ)挫牢(ニ)ともあきは憂
ヨ籠(コメ)るといふよう(ウ)な(ニ)て隠居不便の義ヨ用
うる(ル)ものゝ

登極(トウキヨク)六丁裏

天子の即位ヨ登りぬふをいふ登祚そ〻おふ
〻太平記音義(下の十二丁裏)ヨ登極トウキヨクと云〻
續日本記(卅一の巻一丁裏)ヨ天皇登極之徴也云〻本
朝文粋(四の巻)の後江相公(ノ)貞信公(ノ)三表ヨ陛下登極
更(ニ)降聖詔(ヲ)云〻貞觀儀式(ニ)の巻践祚(ノ)大嘗祭儀上ヨ謂(フ)受譲(ノ)
即位(ノ)非(ス)謂(フニ)諒闇(ノ)登極云〻延喜践祚(ニ)大嘗祭式ヨ
拠(ル)受譲即位(ノ)非(ス)謂(フニ)諒闇(ノ)登極(ノ)云〻貞觀政要(五諫篇)
ヨ自(リ)登極(ニ)已来大
方始(テ)蕭條云〻銭起(ノ)集(ノ)全唐ヨ尭皇未(タ)登極(セ)此地
詩

曽游賞云〻慈恩傳五の巻の表ゟ秦王ハ者即チ腊那国ノ
今ノ之天子ヘ也未ス登ニ皇極之前ニ封ヲ為ル秦王ト云〻天中
記十一の巻ゟ梁の王僧辯ノ奉表を引テ宝武
登極ノ既ニ竟始テ有リ長安ノ之捷あと見えて皇極ゟ登
ゟの字ヒ皇極ハ尚書、洪範篇ゟ五ニ曰ク建用フ皇
極ヲ皇建ニ其有極ヲ云〻惟時厥庶民于汝極ニ錫フ汝保
極ヲ凡厥庶民毎ク有ニ淫明人毎ク有ニ比徳ニ惟皇作ス極ヲ云
〻淫ゟ皇ハ大ヘ極ハ中ヘ也凡ソ立事ヲ當ニ用フ大中ノ之道ヲ云〻
疏注疏本十ゟ正義ニ曰ク皇ハ大也極ハ中也施ス政教ヲ治
下民ヲ當ニ使ム大ニ得テ其ノ中ヲ毎ク有ニ邪僻故演テ之ヲ云ク大中者
人君為ニ民ノ之主ト當大ニ自フ立テ其有ル中ニ之道ヲ以施ス教ヲ於
民ニ云〻周礼、天官冢宰ゟ設ケ官ヲ分テ職ヲ以為ス民ノ極ト云
〻注ゟ各有ニ所職ニ而百事挙極中也令ム天下之人
各〻得テ其中ヲ不レ失ハ中ヲ其所ヲ云〻又選大臣注本四の巻
十六の巻ゟ顔延年ゟ曲水詩序ゟ然モ其レ宅リ天裏ニ立テ民極ヲ莫シ不ス崇尚其
道ヲ神明ニ其位ヲ拓キ世胎レ統ヲ固ニ萬葉ニ而為ス量ヲ者也云〻
注ゟ良カ曰ク宅ハ居ル裏ハ心ノ也極ハ本ノ也言ハ天子居ル天ノ心ニ立テ
人ノ之ヲ莫シ不ス崇ニ高宴楽ノ之道ヲ以敬ニ守テ其ノ位ヲ也神明ハ敬ノ
也云〻みて人君中有の道を極ゝいふ之
ゟ登ル極位ニ登ル紫極ニ

もひ〳〵宋書武帝紀ま云未上據極位云〳〵ま〵旦桓云雖以下雄豪見推而一朝便有極位云〳〵朝本ま〵て極位極官を摂家の子ま君道篇ま位極台司ありとあれバ臣下の極位のまゝ義ま〵さめとおゝま桓云のまゝ有極位ありとつゝるハ天子の位のまゝ五の巻文徳郭皇后傳注ま龍飛紫極作合聖皇云〳〵晋書阮神傳ま希心紫極云〳〵南齊書王倹傳ま上懐明帝紫極云〳〵貞観政要納諫ま陛下高居紫極寧済蒼生云〳〵あれバこれもおなじ

ぜん坊六丁裏

前坊の字已ま上ま注せり

国衙ガ七丁表

国衙已ま上ま足ら

名ヤウム実ジツ七丁裏

名ありて実ありといふ義ま咄頷不の名目ま〵て実ま知りぬあらさるバま節用集字部言辞門ま有名无實ウミヤウムニツ云〳〵運歩色葉集字部ま有名無實ウミヤウムニツ云〳〵て有名の字ハ礼記左傳ま足ら記楊子方言論衡あとま小足ら〵て漢籍カラヅの所見挙

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

ラ尓遑あらし

田祿（クワイロク）七丁裏

下学集神祇ヨ田祿火神名也故呼炎上ヲ云田祿ト也云ヽ運歩色葉集（久門部ヨ田祿クワイロク火神ノ名云ヽ太平記音義（下ノ一丁裏）ヨ田祿クワイロク云ヽ有識小説（下巻）ヨ田祿炎上共（トモ）云リ王城ノ失火ヲ云田祿ト八火神ノ名也云ヽ左傳（廿四昭公ノ巻）十八年ヨ禳火ヲ云冥田祿ニ注ヨ玄冥水神田祿ハ火神云ヽ疏（注疏十ヨ正義ノ巻）ニ曰ク不知田祿祭何人楚之先吳田ヲ為ニ祝融ト或云ク田祿即チ吳田ヲ也祭水神ヲ欲シ令メ水抑ヘ火ヲ祭ニ火神ヲ欲シ令メ火ヲ自止上ニ禳ヘ其餘災ヲ慮ル更ニ火（コヲンコヲ）也云ヽ国語（一ノ巻）ノ周語上ヨ夏之興也融降ル崇山ニ其ヒ（ルヤ）也田祿信（フクノヒヤドレワキン）ズヰ）於ニ聆隧（ズヰ）ニ云ヽ注ヨ融ハ祝融也云ヽ田祿火神再宿（ルヲ）為ニ信ト云ヽ舊（一ノ巻）ノ改斎漫録ヨ田祿ヲ為ル火神条ヨ経傳多ク以テ祝融田祿為ニ火神ト祝融ハ則チ無シ可キ疑者田祿ハ則チ未タ之ヲ見ス也予按ニ周語ヲ曰ク昔夏之興也融降ル于崇山ニ注ニ云ク融ハ祝融其ヒ（ルヤ）也田祿信（ヤトル）ニ於聆隧（キンズヰ）ニ注ニ云ク田祿火神鄭語ニ云ク夫黎為ニ高辛氏ノ火正ト曰ク祝融ト正以テ淳燿敦大ヲ天明地徳光ニ昭ス四海ヲ故ニ命シ之ヲ曰ク祝融ト其ノ功大ニ矣昭公二十九年左傳ニ曰ク火正ト曰ク祝融ト

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

又曰顓頊氏有子曰黎為祝融故太史公採取二傳以為楚世家云顓頊生稱々生老童々々生重黎々々為高辛氏火正甚有功能光融天下帝嚳命曰祝融共工氏作乱帝嚳使重黎誅之而不盡帝乃以庚寅日誅重黎而以其弟吳回為重黎後復居火正為祝融吳回生陸終々々生子六人其六曰季連楚其後也以此考之則祝融之後有吳回陸終回祿者拳二人而言耳陸祿音相近帝嚳既誅重黎而以吳回陸終為後復居火正而為祝融則前古以回祿配祝融而為火神可以無疑矣

云々

准后八丁表

足利鹿苑院義滿乃軍之其傳ハ上まくはし准后ハ准三后の略語之官職難儀ゟ准三宮ゟハ大皇大后宮皇太后宮皇后宮の三ゟ准ふる乃之后の字ゟてゐを男又法中ゟあさるゟ乃理ゟ叶ハぬ抜ふゟと貞観十三年ゟ忠仁公准三后年官爵封戸ゟを給ハらん為也年官爵ゟハ要須用ゟ諸国の掾一人目一人炊雑用ゟ内官を給叙位ゟ叙爵

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

を一人賜はる之給をハ誰もまた仕ふまつる又法中ふ第ふハ光明峯寺殿法助をまうせふ御母儀、改ふ准后まてもうめひ一代譲申されるよう式のさ例そ有ふて皆之但清華ふハ希之北畠ふ任しまつ事俗躰法躰女房ふ親房卿北南朝宣下之當朝ニハ不可用也于今准后ト称来り異于他ト哉云く又五の准三宮、まつ此号法中ふ可限候大略御門跡或ハ摂家清華の高位の御方々被称ト哉又ハ軍家必補任ト治世の間まも被任候哉云く答ふ法中ふ被蒙此宣旨候清華其例希候惜ニ不存候鹿苑院殿毎まつ之様摂家ニ昇進ハ間始テ令蒙此宣旨給ハ云く海人藻芥上巻ふ准三宮事関白、法助初任之但母儀北山、准三后、譲与云く其後僧中任之例及両三人然而近日連綿也准三宮ハ太皇大后宮帝王祖母皇太后宮帝王后妃此三宮准之我朝中宮職アリ仍四宮

ト号スル也云々職原抄上巻参の条ヲ准三宮、大臣ハ者毎年給官爵爵即従五位下官、乃縁若内官ニ也如ニ三宮儀云々ふと見えたれ外故實拾要十の巻有識玉の枝類聚名物考称号部四十本朝官制沿革雑考一の巻麻久奈岐一則ふとの説もいおふ昔傳拾要一のまいくる説ハ誤と其澄鏡ハ三代實録十九の巻貞観十三年十日勅ヲ大政大臣外祖父藤原朝臣云々又給帯伏資人三十人ノ年官准三宮事モ亦當ニ奉レ遵レ先帝之遺詔ニ云々大鏡二の巻良房傳ヲ忠仁公とふつけまる云々はおそらハ文徳天皇のをも太皇大后明子の御父清和天皇の御祖父ヲ申すヲ大政大臣准三宮ニ賜ノ年官封戸三千内舎人左右近衛兵衛六人隨身兵伏資人四十人ノ云々釈家初例抄上巻法親王始の条ヲ法興院大相國出家後蒙レ准三宮ノ宣云々御室法助准后のヲ上ヲ見ヨ愚記五の巻文亀二年三月十日の条ヲ准后ヲバジュゴウト訓べきよし見ヨ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

常磐井相国（トキハヰノシヤウコク）　八丁表

諸家傳補仁一の巻　西園寺系圖ヨ實氏、常磐井大政大臣云ヽ公卿補任亀山院ヨ散位藤實氏十一月三日出家六十七　法名實空文永六、七、七薨ス七十六号ニ常磐井入道ト云ヽ尊卑分脉九の巻ヨ西園寺大相国公経公男西園寺實氏ガ母中納言紙保ノ女、大政大臣従一位云ヽ文應元、五、廿三ニ出家ス六十七法名實空文永六、六、七薨七十六号ス常磐井入道相国ト云ヽ拾芥抄中末諸名所部ヨ常磐井ハ春日、南京極ニ大政大臣実氏、家云ヽ増鏡ハ世の巻ヨ

お旧きおとゞ入道しわひ常磐井とて大炊御門京極ある不ぞ成ける住ぬふ云ヽ相国ハ大政大臣の唐名ヽ職原抄大政官ヨ大政大臣の条

唐名太師（タイシ）相国（シヤウコク）太尉（タイイ）云ヽ

国左右丞相号云ヽ事物紀原四の巻官爵封建部ヨ相国秦置官、始皇帝立尊ニ呂不韋為ヽ相国、漢初蕭何亦為ル之ヲ今人以テ呼ヲ宰輔ト也云ヽ史記秦本記ヨ荘襄王元年東周君与諸侯謀ン秦ヲ秦使ヲ相国呂不韋誅ヤ之ヲ云ヽ漢書公卿百官表ヨ相国丞相皆秦官、注ヨ應劭曰ク相ハ者助ヽ也云ヽ高祖即ラ位ニ置ク一丞相十

一年更名ニ相国ト云ヽ漢高祖代蕭何為ニ相国ヽ
陣騎為リ趙相国後ヨ曹参為リ相国ヨ史記漢書
ヨ見ヨ

三船（ふね）ハ丁裏

此時のヲ應永十五年三月八日此山殿行幸真
名記ヨ三船ハ管絃ノ船ニ置ク其具ヲ浮池上ニ
池辺ニハ儲ケ庭燎ヲ尅限ニ諸卿以下参進候ニ便宜ニ所ニ次ニ主
上出御釣殿ニ被レ具セ御釵豫メ設ケ平敷御座ヲ次ニ寄ス御船ヲ於釣
殿ニ六位ニ昇人仰テ可キ寄ス御船ヲ之由ヲ主上兼テ御
兼御次ニ若公兼御上童著ク御船ニ次ニ菓ヲ分チ兼ル三船ニ柱
男

差之詩歌題當座ニ被レ仰セ之ヲ其儀計也御船廻リ御池ヲ管
絃畢テ詩歌於テ釣殿ニ被レ講セ之ヲ云ヽ古今著聞集五の
巻ヨ表ヨ和歌部ヨ円融院大井川遊の時三船ヨ
のるものなりけり師氏部々経信々又氏人ヨ
おとらさりけり白河院西河ヨ行幸の時詩哥
管絃の三の舟をうかべてそのたくみの人をヲ
あつめてせられけるヲ経信々遅参のヲヲ
外ヨけしきあしくありけるヲ人々みきハヨ
て参りけるヲ三ヲのぬらるる人ヲてやいつの
ひざまつきてやいつの舟ヲもよせも

へといもれそうけるぬ
けるのくいもんまうる
さて管絃のある第て詩
り三舟まみるとはこまら
絃歌舞部ま志賀僧正明
人しけり或時明月の夜湖上ま三舩をうかへ
て管弦和歌頌物のこをはをて遊宴しけるふ
云く十訓抄下巻可度キ幾ス才能ノ者ま御堂関白大井
川ニテ遊覧ノ時詩歌舩ヲ分テ各堪能ノ人々
ラ集セラレケルニ四條大納言ヲ仰ラレテ云

イワレノ舩ニノラルベキヤ公任卿和歌ノ舩
ニノルベキトテノラレケリサテ朝マタキ
嵐ノ山ノ寒ケレバチルモミヂバラキ又人ヅ
ナキ後ニイハレケルハ何レノ舟ニノルベキ
ゾト仰ラレレコソ心オトリセラレシカ又詩
ノ舟ニ乗テ是ホトノ詩ヲツクリタラバ名ハ
アゲテマシト後悔セラレケリ此歌花山院拾
遺集ヲ撰バセ玉フ時紅葉ノニシキトカヘテ
入ベキヨシ仰ラレケルラシカルベカラザル
ヨシ申サレケレバ本ノマヽニ入ニケリ又円

融院、御時大井川逍遥ノ時三舟ニ乗トモアリ
云々又師民部卿経信卿又此人ニオトラザリ
ケリ白河院西川ニ行幸、時諸歌管絃ノ三ノ舟
ヲ浮ヘテ其ノ々ノ人々ヲカチテノセラレケ
ルニ経信卿遅参ノ間コトノ外ニ御氣色アレ
カリケルホトニトバカリマタレテ参リタリ
ケルガ三事兼タル人ニテ汀ニヒザマヅキテ
ヤハトノ舟ニマレヨセ候ヘトイハレタリケ
ル時ニ取テイミヂカリケリカクイハン料ニ
遅参セラレケルニコソサテ管絃ノ舟ニ乗テ
諸歌ヲ献セラレタリケリ三ノ舟ニ乗トハ是
也云々

准據（ヨリドコロ）ハ

以呂波字類抄 九ノ巻、志部 畳字門ニ准據シユンキヨ云
ニ両儀行幸、御輿雨皮、事ヲ師時卿、記ニ云々此例
雖非（ヒトシカラ）ト雨皮ニ尤足ニ准據ニ者（モノ）歟云々
所見（ミル）ヒロク舊式（キウシキ）ヨウシラヌ
大樹（タイジユ）九丁表

足利義持ノ軍ノ足利家官位記ハ勝定院殿義
時至徳三年丙寅二月十二日御誕生應永元年十

二月十七日叙二正五位下一歳同日御元服今日任二
左中将一聴二禁色昇殿一補二征夷大将軍一云々應永廿
六年八月廿九日辞二内大臣一廿四同廿年三月十
八日以レ征二夷大将軍一譲レ任御息一同四月廿五日御
出家廿八歳同廿五年正月十八日御四十三歳同
廿二日贈二大政大臣一号二勝定院殿一云々尊昇分脈
二の巻源氏清和の流 ◎義満大将軍の男義持内大臣従一
右大将征夷大将軍至徳三、二、十二生應永元、十
二、十七元服任官叙位同廿四、廿五剃髪法名道
詮号二勝定院一道号二顕山大禅定門一贈大政大臣一
品應永廿五、正、十八薨四十三云々諸家傳補
任一の巻 ◎室町殿の条よくはしく見
○大樹は百寮訓要ニ大樹征夷大将軍唐名也
隋高熲大将軍ニて槻下ニてをきく時ニ
伐きらば後代のもろこし石伯の甘棠のごし
大樹将軍といふ云々鎌倉年中行事上巻正月朔
日の条ニ京都鎌倉ノ御両殿ハ天子ノ為ニ御代
官ニ諸侍忠否之浅深ヲ記ニ可レ有ニ御政務職ニテマ
レマス間大樹ト申也云々後漢書十七の巻馮異傳
ニ毎ニ所ニ止舎一諸将ニ論ニ功ニ異常ニ獨レ居ニ樹下一軍中

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

号ノ曰ニ大樹将軍ト及テ破レ郢ノ郭ニ乃テ更部ニ分ノ諸ヲ各有ニ配
隷軍士皆言ヲ頲クス属セント大樹将軍ニ云ク隋書四十一ノ巻高
頲カ傳ヲ頲毎ニ至ス朝堂ニ北ニ捉ル樹ヲ而以テ聽ク事ヲ其ノ樹不レ依ラ
行列ニ有司ヲシテ代ント之ヲ上特ニ命メ留ム勿レ去ル以テ示シ後人ニ其ノ見ル重セ
如レ此ノ云ヽ扨テ大樹ノ訓法ハ有識問巻一ノ巻
ヲ官位ノ唐名讀ヤウノ事ヲ常ニハ唐音ヲ讀也 十丁オ
大文字ヲハ左ニ六字ヲハ右ニ讀ムヨシ
トアルハバタイシユト大ヲ清樹ヲ法テ訓ヘ
御座アルベキ不敢ラ九丁裏

於夜群書類従奉ヲハ松屋ヨリ北ヘ伏見殿ヘ
還御ナラセラル栄仁親王ノ御子ヲ紹運録ヲ
崇光院御子後崇光院御父栄仁親王法名道智
號ス有栖川ト又号ス大通院ト母ハ重賢卿女云ヽ伏見殿
ハ今ノ伏見城地ノ辺ヲ山城国宇治紀伊両
郡ヲ接シ ラル里ヲ ヲ所ヲ山城名
勝志十六ノ巻ヨリ ク宝厳院モ永記永正
七廿四日条ヲ未明令下向城南今日贈皇太后宮御年
忌有リ御経供養已刻着寂坊宝厳院令休息ヒ
リ

狭少（ケフセウ）九丁裏

寶厳院（ハウゴンヰン）の御所の狭（セバ）く少（スナ）きよし云々節用集計部辞言

抄七の巻計部畳字門ヨ狭少ケフセウ云々東山殿記ヨ當時如（ハ）此議定所狭少（セバ）不叶（カナハ）云々狭小ヲ通用セ也狭小ノ字面八左傳昭廿ヲ始（ハジメ）而見多シ

周高西堂（シウカウサイダウ）十丁表

前坊直仁親王の御子也西堂ハ撮壌集上巻諸宗部禅僧系ヨ長老僧録東堂西堂首座（シユソ）單寮（タンレウ）ト位次セリ庭訓往来十月三日状ヨ禅家者堂（ヤ）ト和尚東堂西堂并（ニ）知事方丈都寺（ツウス）監寺（カンス）副寺云々諸鈔大成四ノ巻ヨ西堂東堂次也ハ私ヲ之称ハ五山出世の次第ハ藏主（クワンス）首座（シユソ）單寮（タンレウ）西堂（サイダウ）ト之号ヲ私友之西堂の上ニ東堂（トウダウ）ト云ふ号勅任之

清暑堂（セイシヨダウ）の神宴（シンエン）十丁表

中務内侍日記五十七オヨ清暑堂の御ありさまを君も見ん時代のもしめの御衣ふを垣ばうを神すゑてもてやしぬる人かねてすゝそのみゝとゞま

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

みうめ御神楽の御装束をてう出御ありてはしまりめもの、音ばかみの調(ワゴン)子和琴のさべ本末の拍子(ヒヤウシ)はあいせてかきふれおもろくさ〳〵きふふる兒あそやもねろの云〳〵代始和歌は已の日の詠会はやまと舞因舞あといふ舞を奏じ今日清暑堂の御神楽何り云〳〵主上は御束帯にて簾中の大床子の御座ふ出御何り執柄大臣その外亦(ヤク)他の人もり着座ありて音声は雅楽寮の伶人をめてかき〳〵残撥(セバチ)せて神楽の後物語あり神楽の

曲は鎮(ヨリ)合阿知女(アヂメ)榊星(ホシノ)三首朝臣は御遊のとき或は神名尊(カミナヅト)伊勢海あと唐土のをり云〳〵正あ三年大嘗會記は清暑堂御神楽云〳〵拍子は左大弁内實中御門、宰相宗(むね)付歌、有時朝臣冬定和琴鈴鹿大炊御門大納言良宗笛、柯亭別當兼季篳篥、前民部卿兼行云〳〵清暑堂神宴の事は貞観儀式四の巻践祚大嘗祭儀下西宮記臨時北山抄五の巻江家次第十五の巻践祚下 管見記十五の巻大嘗會部類礼儀類典二百八十五の巻大嘗會十一あとその外不足枚挙に遑あず清暑堂は豊楽殿後房をて拾芥抄中、未の巻禁中所〳〵異名部

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　　ガラス使用

大内裏考證四の巻上 まくハ
○神宴は御神楽の後宴ニ三代實録三の巻十三丁表
貞觀元年十一月十七日の条ニ大嘗會ノ礼訖テ云〻是夜天皇留豊樂殿後房ニ文武百官侍宿ス親王已下侍ニ御在所ニ琴歌神宴終夜歓樂賜ニ御衣ヲ云〻豊樂殿の後房ハ清暑堂の一名ニて是則清暑堂の神宴ニ又十二の巻貞觀八年正月廿三日条ニ禁ニ断諸家諸人ノ祓除神宴ノ之日諸衛府舎人及ニ放縦之輩ニ求ニ酒食ヲ一責ニ被物ヲ一亦同ニ前ニ中有ニ祓除神宴事ニ絃歌酔舞欲ニ悦ニ神霊ニ而諸衛府舎人并ニ放縦之輩不ニ縁ヲ主ニ招ニ好ニ備ニ賓伍ニ侵ニ幕争ニ入ニ突ニ門ニ自ラ殪ル初未ニ之時似ニ愛ニ酒食ニ臨ニ拘ニ帰却ニ更ニ責ニ被物ニ其求不ニ給念訟詈辱ニ或ハ亦託ニ神言ニ咀ニ恐ニ喝主人ニ如ニ是濫惡逐ニ年ニ維新推ニ彼意況ニ不ニ異ニ群盗ニ豪貴之家尚毎ニ相憚ル何況ニ於ニ毎勢毎ニ告之輩ニ哉是而不ニ紀何ニ云ニ国憲ニ望請厳ニ仰ニ所ニ司ニ一切ニ禁遏ニ者云〻せ六の巻九丁表貞觀十六年九月十四日の条亦同
江家次第十の巻五十五丁裏賀茂臨時祭条ニ入ニ夜ニ神帰参有ニ神宴ニ事云〻ゑ〻五十丁表神宴御装束云〻七の巻六丁裏外宮遷座篇ニ来ル日命ニ齋ニ倉ニ神

男女小男童神宴ヲ雪云々ト神事の宴ヲいへ
ヲ爪兄ヲあらし
貞成（さだなり）十一丁表

後崇光院貞成親王ヲ（ヲ）て記の作者ヲ紹運録
ヨ光厳院御子崇光院崇光院御子栄仁親王栄
仁親王御子貞成親王年月日出家法諱道欽文
安四十一廿七太上天皇尊号（アリ）康正二八廿九崩（ヌ）
八十五奉（ル）号（ニ）後崇光院（ト）云々後花園院諱彦仁應
永廿六六十八（ニ）降誕實後崇光
敷政門院（ニテ）贈左大臣源経有（ノ）女（ヲ）云々尊卑分脈（ニモ）

（巻二諸氏）源ヨ崇光院御子栄仁親王御子後崇光院
貞成應永廿四十六親王宣下同七出家文
安四十廿七太上天皇尊号康正二八廿九崩云
々皇年代略記ヨ後花園院彦仁後崇貞成親王
御子母敷政門院（ニテ）入道贈左大臣中将経有（ノ）女（ヲ）栄
仁親王孫崇光院曽孫依（テ）上皇无（ニ）継嗣也云々歴
代皇記ヨ後花園院諱彦仁後小松院御子實後
崇光院御子云々康正二年丙子八月廿九日太
上法皇奉（ル）号（ニ）後崇光院（ト）云々康富記文安四年十
一月廿七日の条ヨ是日太上天皇尊号宣下也

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

被レ授ニ申於伏見殿一今上厳親ニ王貞成御法号ハ道欽ト云ヘル入道毎品親王貞成生ム天皇ニ
行ハ詔書事ヲ云ヽ皇和真俗通ノ故ニ入道毎品親王ト云ヘリ五ノ巻ニ後花園天皇
諱ハ彦仁崇光帝ノ曽孫ニ崇光帝生ム大通院栄仁ヲ栄仁
生ム品親王貞成ヲ貞成生ム天皇ヲ云ヽ文安四年尊テ
皇父ト入道欽為ス太上皇ト崇光院ノ孫ニ貞成親王ノ実父ニ貞成法名道欽ヲ云ヽ康正二年
秋八月太上皇道欽崩ス今上ノ初ニ居ル大通院ノ崩年八十五
云ヽ按ニ後崇光院百首和歌同永享五年九月
御百首ト世ニ伝ヘリ
褌(キヤウ)褠(ハウ)の時十一丁表
倭名抄十二の巻ニ衣服類部ニ孫楢曰ク褌褠ハ響保ノ二音ト小児ノ被也

和名毎豆岐(ムツキ)云ヽ新撰字鏡ニ衣部ニ褠ハ方光反上ハ毛ム豆支(ツキ)云ヽ褌ハ九合反上ハ束ル小児ノ背ニ帯ヲ須スキ支云ヽ按ニ
毛豆支ハムツキト訓ベシ毛ハ牟ノ二音古書多ク通用セリ須ハ豆ノ通音杯ヲ豆支(ツキ)ト云ヘルモ
おふ(通音)ヒモツキ(紐附)の義ニて縦俗ニ
雨具ヲ云ヽ類聚名義抄法中ニ衣部ニ褠ハ方光反上ハ毛ム豆支(ツキ)ト云ヽ同巻ニ衣部ニ
糸部ニ縦褠上ハ居ル雨具ヲ又下ハ音保ムツキニ
褌ヒムツキ又チゴギヌ云ヽ褌褠響保ハ二音ム
ツキ又タスキ下ムツキ又チゴノキヌ云ヽ按ニ
ヒムツキとあるハヒモツキの通音ニて縦俗の義ニや
雑巻ニ无部ニ褌褠ムツキ小児ノ被ヲ以呂波字類抄ニ五
物門ニ褌褠ハ小児ノ被也云ヽ塵添壒嚢
抄十一の巻ニ縦褠トハ小児ノ便利ヲウクベキ物欤

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

常ニハサコソ思ヒナラハシタレ但シ本意ハ不然ラ
漢書蒋八注ニ李奇曰ク繈ハ絡ナリ也以テ繒布ヲ為ル之絡頁ニ小
児ニ孟康カ云ク襁ハ小児ノ被(フスマ)也云ヘリ是小児ヲツヽムオ
ヒアリクヘキ物也便宜(タヨバ)不浄ノ物ヲモ拭取リ
ナトスルニコソ云ヘ古今六帖一ノ巻ノ歌
ヨ
　　雪のうちにてうぐひすの子ハ春のむつき
のふのこころあけ詞花集賀部ニ正月一日子う
みたるをよめるつきはのいつしかとよめる伊勢
大輔

代のむ月をかさねつゝ
藏開上ノ一巻ニ柿本人丁表ニ出ル宇穂ノ
くらゐ又の中納言の子そこころのてくこ兒重
り時乳つけなんつゝとのゝ此方時ハ帳のも
とさふらひぬひハ女時君おきいきて時
そきもせまりぬふむつきふつゝみて時乳(チ)まお
りぬふ云てまふ裏(サヒ)ニかくて時うぶやしふひ
の三日の祝ハ右右ハ銀(ヲイカネ)の衝重十二
おあしものうちしきものふとんのうへ

ものかきねこる（古字）歌のきこえ
つきうちしきいまこう云ふまゝ（廿五丁表）中納言
きたち一さびよそうこ
もハ女のさうぞくちご
ろう云ゝ抱よ此前後
つむよ（ばゝ引出つ）源氏寄生
への衝重三十ちごの
御むつきふそを（ゝ）
（ゝ）（卅六丁裏）よ御ぞ御むつき
さひうつゝみお包ひ

（廿五丁表）中納言
（廿六丁裏）衣箱（ころも）

（紫日記よ）

も回文あり
か異ふう 毛詩小雅注疏卅
義曰書傳説成王之幼云在襁褓縛（ク）児被也故
幾以為夜衣云ゝ論語注疏卅
之民襁負其子而至矣云ゝ注よ負者以（スル）異曰襁
云ゝ疏よ正義曰博物志云織錦為（ル）之廣八寸長
二以（ス）約小児於背云ゝ史記魯周公世家よ成王
少在（リ）強葆之中云ゝ索隠曰（ク）強葆即襁褓古字少
假借用之正義曰閑（サ）八寸長八尺用（テカメテ）約小児於背
而負行葆小児被（ラ）也仲尼弟子傳衛列子卷上天瑞
篇よ栄啓期對曰云ゝ人生有（レ）尺不（レ）見日月不（レ）免（レ）襁

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

稼者吾既行年九十矣是三楽也云々此外漢書
賈誼傳後漢書桓郁傳注魏志涼茂傳注あると和
漢の所見おほの是と必竟は俗ふ㆑ふ㆑極纏の
類ふ

障碍十一丁表

以呂波字類抄九の巻志ゟ障礙しやうげ云く
部畳字門ゟ障礙しやうげ云く節用集之部言ゟ
障碍門志ゟ障礙しやうげ云く運歩色葉集
同云く
音妻鏡十五の巻ゟ魔鬼障碍有何危哉云く太
平記廿二の巻中宮御ゟ悪魔然霊ナリトモ障礙
産即祈の条

ヲ難成トソ足エタリケル云々龍龕手鑑七の巻石
部去ゟ礙ハ五愛切止也限也拒也又外閑也与関
同後礙俗云く品字幾代集ゟ礙同上碍同上俗字
云々韻會小補廿の巻ゟ礙或作碍亦作导南史
引浮屠書作导通作関亦通作咳云々障礙の字
古字書類聚名義抄字鏡集倭玉篇平ゟ各サフ
他字類抄新韻集委曇墨難字記ゟ
ルサハルトヽコホルトヾムふと訓くり慈恩
伝一の巻十七丁表ゟ王曰弟子亦不敢障礙直以国
無導師故屈留云く宗鏡録百卅九の巻四丁表ゟ謂由諸
根不壊作意現前時同類生異類生無障礙不極

遠云々毎障礙者復有四種一非覆障所礙二非
隠障所礙三非暎障所礙四非惑障所礙云々三
藏法數七の卷ま二障出天親ノ論障即テ障礙如金剛経
中須菩提得毎諍三昧蓋由此二障故也云々ま
ゝ表廿丁二礙一煩惱礙謂見思二惑起種々昏煩
之法惱乱心神以致障礙毎漏法性是名煩惱礙
二智礙謂由根本毎明之惑覆蔽法性而於中道
種智則成障礙故名智礙云々白氏文集廿四の卷春
日題乾元寺上方最高峯亭詩ま但覚虚空毎障
礙不知高下幾由旬云々

負外の考まゝ十一丁表

一本負外のまゝとゐ義通ル負外ハ数の
外まてゝハ世の人教の外の考といふよ
ゝ續日本記廿七の卷十五丁表卅の卷ま負外
国司負外介ゝ足ゐ負外郎ふとゐ類和漢の書
ゐ不足お用源氏明石湖月抄卷四十四丁裏まかゐよ
り用ゐの権大納言ふあり云ふ續世継五の
卷廿五丁表餝太刀ゐさてもゝとゐかゐの外の大
納言ふくハりのひて云々百寮訓要ゐかゐ
の外の円亜と円大亜をハ申こると云々

義量（ヨシカズ）十一丁裏

足利家官位記ゟ長得院殿義量應永十四丁亥年
十二月朔日御誕生同廿四年十二月朔日御元
服加冠父公十一歳叙正五位下同日任左近衛中
将禁色宣下（アリ）同月十三日昇殿今日初院参同日
讀書始同廿年三月十八日任征夷大将軍受譲于
時十七歳同廿一年正月十二日叙従四位下同年十
月十三日任参議同廿二年二月廿七日薨十九歳
号長得院殿道基鞏山大居士贈左大臣従一位
云々尊卑分脉二の巻源氏清和の流ゟ足利義持男義量

母従二栄子参議左中将征夷大将軍号長徳院
法名道基号鞏山大居士贈左大臣従一位永廿
二年廿七薨十九才云々
仙洞（センドウ）十二丁表
仙洞後小松院ゟ諱幹仁後円融院第一皇子
御母通陽門院嚴子治世卅一年永和三六廿六降
誕永徳二四十二受禅同年十二廿八即位應永
十九廿九禅位永享三三廿四御出家法諱素行
智同五十廿崩春秋五十七
史巻七十二同七十三ゟ足えゝ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

仙洞は海苔藻介巻下ノ仙ト
テ後ヲ申スも也未タ宣下ナキ時ハ院ト申スも也太
上天皇ノ宣下シハ尊号トハ申スも也云ヽ故実拾要
一ノ巻ノ太上天皇太上帝院上皇仙洞仙院是皆
天子御位ヲ新帝へ譲リ玉ヒテ下居ノ君ヲ申奉ル
也云ヽ昔傳拾要一ノ巻ノ御位をしらせおふ
を新院ト申尊号定ラレて太上天皇の号を蒙ら
せおふを仙洞と申御出家あるを法皇ト申ス
云ヽ節用集世部乾坤門ノ仙洞裏内仙家云ヽ藻塩草
十四ノ巻院部ノもこやの山名ある仙洞をも云ヽ

みの国うまの仙洞ヽ蓬(ヨモギ)の国うの仙洞ヽ
う国云ヽふと凡そこるみて
子洞范成大ノ上元ニ紀ス
字面凡そ三十六洞天続博物志一
の洞(ホラ)の永久ふる義を彫(イワ)て祝(イワヒ)言せる名目也

逆鱗(ゲキリン)十二丁表

海人藻苅上巻ノ逆鱗ハ帝王ニ限テ云ヲ臣下立ハ
尋ル人ノ子也云ヽ故實拾葉六ノ巻ノ勅勘(チョクカン)逆鱗(ゲキリン)
禁宸(キンシン)禁是勅勘天子ノ御勘気(エイ)ヲ蒙ルヲ云逆鱗
ハ御怒ノ義也殿禁宸禁ノ二ツハ御苦労ニ被(ル)思(サ)

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

ノ義ト云ヘリ昔傳拾要一の巻の天子咍腹立を逆鱗といふ云々太平記音義二下巻廿丁裏も逆鱗ゲキリン云々節用集計部言辞門も逆鱗ゲキ韓非子四の巻の説難篇も夫龍之為虫也柔可狎而騎也然其喉下有逆鱗径尺若人有嬰之者則必殺人主亦有逆鱗説者能無嬰人主之逆鱗則幾矣云々史記韓非伝もおなじ説あり後漢書李雲伝ふ今日殺雲臣恐剖心之讖復議於世矣故敢觸忌諱冒昧以請云々注ハ韓子を引ける貞観政要二の巻求諫篇も龍可擾而馴也喉下有逆鱗云

卅四年の冬十二丁裏

称光院の應永卅四年之内府十三丁表

勝定院殿義持公の軍ノ上ニなくりく注ハ

内府は拾芥抄中末官位唐名部も内大臣内府内相府内丞相云々節用集大部官門も内府内大臣唐名云々撮壌集下巻官位ノ部官名類附唐名の条も内大臣内相府内云々運歩色葉集那部も内大臣唐名内府相府相國丞相僕射蓮府槐門左大臣右大臣内大

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

臣也時曰三公台三槐也云々大塚嘉樹が百寮
訓要別注一巻の内大臣相當ナシトイヘ氏大
凡正従二位ナリ近代従一位ノ人内大臣トナ
ルコトモアリ唐名ナラズトイヘトモ左右大
臣ニ擬テ内府ト称スル也云々ふと見えてこ
れを唐名とかけるハ誤也漢土の官名ハ内府
ある周礼後漢書鹽鉄論の類ニさて内大臣は拾
外府ハ對さる名目ゆえ異也
芥抄中巻公卿遷轉部ハ左右ノ内大臣孝徳天
皇大化元年以テ阿閇倉橋麿ヲ為左大臣以蘓我山
田石川丸ヲ為右大臣以大織冠上中臣鎌子連ヲ為
内臣天智天皇八年十月十五日以テ大織冠鎌子ヲ
為内大臣云々百寮訓要抄内大臣内府
さゝるゆえ任人大略右大臣ハ同是ハ令条ハ
ふき也申ハ大織冠始て任せらる令ハ
ふき也申ハ源氏抱語ゆえ
以の外の大臣と内大臣をわきまへさる也云々職原
抄上巻太政ハ孝徳天皇御宇以テ中臣鎌子連ヲ始テ
為内臣ト天智朝拳テ為内大臣ト賜藤原朝臣姓ニヤ此時
其位在左右大臣上ニ其後此官久絶テ至光仁御宇ニ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

藤原良継奏名等任之初次左右大臣之下凡内
大臣者令外之官也又有大政大臣之時任内大
臣頗似毎其謂云々官職難義之内大臣ハ
以多左右大臣ヨリ
ら八内大臣ヲ初ベきこと
冠始て御拘任也ヲ時ハ
仍テ此後ハ年絶て
文武天皇御宇官位令ヲ定
ハ令ヨリ外の
皇御宇宝亀八年ニ再興あ

任ズ此時ヲ位右大臣の次ニ
今ヨ左右内ト申也但大臣
ヲあるヲ若ハ位ちがひ
次ヨ列ベき由宣下あるヘし万一此宣下あく
ハ今も大臣のうちハ位階の次第ヲてあるへ
き也云々倭事始正誤二の巻ニ今ノ内大臣ノ
始ハ續日本記光仁天皇宝亀十年正月壬寅朔
以忠臣従二位藤原朝臣奏名為内大臣ト云々此
今ノ内大臣ノ始也云々此外官職秘抄大政官の条
濫觴抄上巻ヲとその外是等ニあらハ歌ヨ

は高大夫實毎の百寮和歌ま内大臣
かゝをもいらくやそのかみの内の
おそいのも〳〵免しくん又星の伍春一
ふびく俊成、長秋詠草、下家隆、玉吟集、上ま二首
新続古今、雑下 夫木抄、雑十七 あそもよ
一の巻 ま義知説ま影靡(カケナビク)ハ
く三公を三台の星ま〳〵又内大臣ハ
三公の負(カウ)の外ふうやうて三公ま俗任しねふ
官ま故にあげふひく星といふ云〳〵左右大臣内
大臣を三大臣と称ふるよう有識問答四の巻ま

ゑえふう
逐電(チクテン)十三丁裏
以呂波字類抄、二の巻知部ま逐電チクテン云〳〵
下学集、雑藝門ま逐電日本俗世話暗跡(スヘノアト)義也云〳〵
節用集、知部言語門ま逐電(チクテン)眛跡(マヌカレノアト)出奔(スルヘ)云〳〵運歩色葉
集、知部ま逐電チクテン云〳〵太平記音義、下巻十七丁裏
ま逐電チクテン云〳〵明月記、貞永二年二月十七日の条ま
慈賢其夜逐電居住(スマ)近江国百済寺云〳〵五妻鏡
一の巻一丁裏ま廣常以下、士卒帰参、御旅館申(スル)合戦、次
第及秀義逐電城郭放火等事云〳〵六の巻五十六丁

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

丁裏豫州逐電之後云々（十五の巻 重源上人
去ル十三日逐電云々（四光大師繪詞傳一の巻 定
明ケテ逐電シテおのく帯座ないらひ云々（侍中群
要一の巻藏人 ヨ逐電退下ス云々（退下逐電
初参の条
天云々（朱文公文集八十二の巻
書如シ天馬脱シ銜ヲ追シ風逐シ電ヲ云々（漢書、大十四王褒の下巻
傳聖主得ル賢臣ヲ頌ヲ追ニ奔電ヲ逐ニ遺風ヲ云々（中巻、鳥ヨ秦、始
漢の書ヨ所見あり中華古今注 獣篇
皇有リ七名馬追風白兎踰景犇電飛翮銅爵神鳧
云々（進風一奉ヨ進電ヨ仍ヲ逐電ヲ同義

の名ヲ
宮ノ御方（ミヤノオンカタ）十四丁表
後花園院ヲ紹運録ヨ第百三後花園院諱彦
仁治三十六年母光範門院實母敷政門院贈左
大臣源経有女応永廿六、六、十八降誕実後崇光
称院崩御後依无正長元、七、十九第一御子
皇胤為リ御猶子
二、廿七即位云々寛正五、七、廿八践祚永享元、十
応仁元年九、廿俄ニ手令ヲ切ラ御本鳥ヲ給ニ御出家法諱ハ
四通智御戒師増運僧正云々文明二、十二、七ニ崩ス
於室町亭泉殿ニ五十始奉ル号ニ後文徳院ト後改ム後花

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

園院ト云ヽ皇年代略記ヨ後花園院諱彦仁後小
松院ノ第二皇子實ハ後崇光貞成親王御子母敷政門院ニテ
入道贈左大臣中務卿有女栄仁親王孫崇光院ノ
曽孫依ニ上皇ノ一ニ継嗣ニ也在位廿六年應永廿六年
己亥六月十八日誕生正長元年七月廿八日踐祚
於ニ土御門高倉前右大臣公光第一ニ
已亥即位官廳云ヽ寛正五年七月十九日禅ニ位ヲ於
第一皇子ニ云ヽ應仁九年九月廿日俄御出家戒師ハ
増運僧正實相院ニ隨ヲ便宜被ル
七日俄ニ御惱頓ニ崩ス室町第 文明二年十二月廿
皇居同第也 五十二仙洞統
月三日奉レ葬ニ于悲田院泉涌寺ニ為ニ敵陣ニ
院ノ後ニ為ニ花園院ト云ヽ歴代皇記如是院年代記新
撰和漢合運下本朝諡号雑記ふくふくり
按察殿 十四丁裏
庭田三位重有卿女ニ女房官品ハ師掄察使ノ
もんのうとこゝろ等ハ上臈ノ付ル名也ト云ヘリ
もあやもろふとハいさゝかなりてさのうへ
うとゝ云ヽ故實拾要ニのせ凡ソ按察ノ号ハ院中ノ女
房号ニ天子御在位ノ時ノ至ニ内侍以上ニ天子去
御位ヲ為ニ上皇ト後モ又如レ初奉レ事ニ上皇ニ女房ニ是ヲ謂ヲ

按察常例云〻禁秘抄下巻女房の条ヨ新院御時督三位按察三位雖為三位不入夜御殿不取剱璽也是僧女故也云〻按ヨ新院ハ土御門院按察三位ハ僧俗両門の女ニ時ヨ限らすして普通の例ニハあらす績日本記八の巻養老三年七月庚子の条ヨ始置按察使令伊勢国守従五位上門部王管伊賀志摩二国遠江国守正五位上大伴宿祢山守管駿河伊豆甲斐三国中略其所管国同若有非違及侵淫百姓則按察使親自巡省量状黜陟其従罪以下断決流罪以上録状奏上若有聲教條條部内書清具記善最言上云〻官

職秘抄上の巻参ヨ参議兼按察使例清原長谷の条

云〻又下巻按察使の条按察使令外大納言可准之或及中納言参議所云〻百寮訓要抄ヨ陸奥出羽按察使府陸奥出羽ハ大国ヨてみち式両国を殊更敗ける也按察使陸奥出羽を管欽ける職也大中納言ヨ兼ル事ハ陰陽抄ニ見于参議所云〻百寮訓要抄ヨ

監ニ両国ノ事ヲ一云々以呂波字類抄八の部官職門ヨ按察使府アリシヲ養老三年已亥始置云々節用集阿部官位門ヨ按察使アセワシ都護云々運歩色葉集阿部ヨ按察使アゼチ唐名都護云々容斎三筆七の巻観ヨ唐世於ニ諸道一置ニ按察使一後改為レ察使の条ヨ唐書大典社氏通典文献通考ふと倭漢のふ足い引ぬきお目ぬき

採ニ防禦使一治ニ於所部一之大郡既又改為ニ観察一其重有ニ卿ハ公卿補任上の下巻永享十二年の条ヨ正三位源重有六十三六月廿七日依テ病ニ宣下有ニ我旅之地即置ニ節度使一云々謂ニ之都府一云々按察

超ニ越ス教輩ノ一尤殊恩也當今御實母彼姉也被ニ優ニ此事一也同日出家七月廿日薨云々諸家傳補任五の巻庭田傳ふ重有卿應永廿三正六従三位四十九才永享四三参議五十五才同七正五正三位八十同十三廿権中納言六十一才同十二六廿七権大納言六十三同日出家同七月廿日薨云々宇多源氏ノ一綾小路五辻大原同流之

いい（十四丁裏

已次已次の字音ヨテ其次（ソバキ）ノ義ニ云ふいふ西宮記正月五日叙位議条裏五ヨ曰條大納言説ニ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

云著議所(キトコロニ)時一大臣入(レ)自(リ)南以次(イニ)大臣以下入(レ)自(リ)
艮角但雖(モ)以次大臣(ト)執筆之時可(シ)入(レ)自(リ)南納言
執筆之時猶可(シ)入(レ)自(リ)艮云々又著(ク)御前(ニ)円座(ニ)之時
以次(イニ)大臣執筆者猶先著(ク)自(リ)座(ニ)之後隨(テ)御氣色(ニ)可(キ)
著(レ)上座(ニ)欤云々永記大永二正二淵酔の条ニ下
臈貫首勧盃事云々第一大臣之外(ニハ)取(ル)酌(ヲ)人無(キ)之
欤已次(イニ)之大臣(ニハ)只盃許(リカ)欤云々違行故實抄一の巻大
臣為(ニ)外(ヲ)ハ大臣起(ツ)之時已次如(シ)此大臣進(ム)之後
儀の条
已次復座一々起(ツ)也云々思ひのまゝ此日記ハ
近比まおらめちよ(レ)いし(レ)まてもとゝのへ

さてあふ云々雲井の春ハ(レ)いし(レ)けんそうの後ふまうあふ云々北山
殿行幸記ハ者の御不敬のおそれ(レ)の御まうけもいかゝきヲ云々又次ハ冥
白いし(レ)公卿次第ハちやくさん云々又その
後冥白いし(レ)次第ふまあてあふ云々又まう
けおそれも御まいし(レ)いし(レ)けいめいし(レ)ぬふ
云々御湯殿上記永禄五年今日ハ御初穂ヲ
もあり女中の御ふあ(レ)御ふあ(レ)ふる(レ)御いそひあり云々以次の字

面漢書叔孫通傳同趙元国傳後漢書趙孝傳ふ
〻ふ出て倭漢の五尺枚挙し一の〻〻
管領（クワンレイ）十五丁表
此時管領ハ斯波義淳ニ尊昇分脉二のま義淳ハ
左兵衛佐治部大輔正三号心照寺云〻男義重
治部大輔早世云〻斯波系図ま尾張守高経云
〻其子治部大夫義将義満初軍管領云〻其子
斯波左兵衛督義重従三位管領法名道孝云〻
其子右兵衛督義淳管領永享元年八月再管領ス
云〻鎌倉大日記ま應永十二管領斯波右兵衛
督道孝入道俗名義重云〻同十七年二月十九
日道孝上表ニ義淳管領六月五日領掌云〻正長
元年管領義淳再任号ス心照寺云〻皇和真俗通
廿五の巻後ま永享元年八月義教以源斯波義淳ヲ
花園の条
再為ス管領ト云〻ふを見えて彼是齟齬せり應永
廿九年八月十八日畠山左衛門督満家入道道
端再補ス正長元年斯波義淳替了再補せし
管領ハもと頭弁（トウベン）をいふ以呂波字類抄六の巻久
部畳字門ま管領クワンレイ云〻節用集久部官位門
官領クワンレイ殿上人頭人（トウニン）也云〻薩戒記應永
廿八

年正月二
日の条　小今宵殿上淵酔云々或人吉送云々只
頭弁内議云近代貫首弁官与羽林亜之時雖下
臈弁官為殿上管領今又如此仍著殿上座之時
乱位次管領頭可著奥座由先々沙汰旧了仍為
中将之人殿上淵酔日皆以申障不参是為不著
下欤云々あるまて勿論武家管領ハ壟
嚢抄七の巻才ハ管領ト申ハ近比ノ事也本ハ
執事ト云キ大御所ノ御時高師直朝臣久々此
職ニアリシ執事ト号ス云々近比御一族ノ為
ト成テヨリ以来管領ト申也云々海人藻芥下巻

細川武蔵守頼之迄ハ執事ト称ス其以後皆称ス
管領如此ノ時ノ欤云々管領の字面は全唐
詩胡曽が集ハ管領春風總不知云々殷成式が集ハ
婉女不愁難管領云々あるも皆管の字を用ひ
し品字義壬集轉諧ハ管綜理其事ノ也史李斯傳趙高
曰幸得以刀筆吏選入秦宮管事二十餘年漢劉
向が封事管執損機又主當也礼楽記礼楽之説管
于人情矣註猶包也又孝子聖人道之管註總統之
也又唐代宗分河北諸州節度為六管云々和名
抄国郡部ハ某国管若干郡ありも其国府ハ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

了其郡司を管領(ス)るよし

觸穢(ショクエ)十五丁表

忌穢(イミケガレ)のすゝ拾芥抄下末巻 簾中抄下巻 侍中群要の
巻九の巻 十三の巻 寶石類書百廿の
巻 永正記奉上 塩嚢抄の
巻喪
巻部 ふとその外抄よお困くゐえて甲乙丙丁
ふとの品あり

院(ヰン)の御猶子(ゴイウシ)十五丁裏

後小松院の御猶子(イウシ)と猶子(イウシ)ハ俗ニ子分(コブン)といふ
おを論語先進篇 よ子曰ク回(ヤ)也視(ミテ)予(ヲ)猶(ホ)父予不得
視猶子(ミテヲホシコトヲエズ)也云々文選 六臣注本五
十六の巻 潘安仁の楊仲

武詮(カルヽ)は視(ミテ)予(ヲ)猶(ホ)父不得(ヲエズ)猶(ホ)子(コ)云々とあるを据
ふる字面なるべし古事談一の巻 後一条院御
宇小野宮右府奉仕(ツカマツル)除目執筆之時被申(レテ)於摂録(セッロク)
云々天暦蕃臣實資申(マヲシ)摂津国闕(ケツ)候被(レ)優(セ)七代奉公(ツカマツル)
而可(シ)給(フ)云々関白被(レ)伺(ウカヾヒ)天氣即勅許(ユルサレ)国司ニハ猶
子資頼ヲナシ候也トテヤカテ被(レ)書入(カキイレ)ケリ云
々又二の巻 待賢門院ハ白川院御猶子之儀ニテ
令(メ)入内(ジュダイ)給(フ)其間法皇令(メ)密通(セ)給(フ)云々参考保元物
語一の巻 後白河院御即位の条ニハ崇徳院ト申ハ
御諱顕仁鳥羽院第一皇子御母(ハヽ)待賢門院藤原

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

璋子大納言公實卿女也元永二年五月廿八日
御誕生大上天皇（白河帝）御猶子ニテオハシマ
スト云ヽ平治物語（上巻信西出家の条）ニ彼信西
申ハ南家博士長門守高階経敏が猶子也云ヽ
古今著聞集（二の巻廿五丁表）ニ景俊女御僧正を
御猶子ニて御物懸のみさし（実ふさ）云
ヽ（十五の巻八条おもの御門）又十丁表
品宮の御猶子ニて云ヽ神皇正統記（上巻仁明の条）
西院の御門の御猶子の義ニ
ヽ（下巻堀川の条）御母ハ中宮賢子右大臣源顕房の

女実白師実の大五猶子ヽ云ヽ（又同巻伏見の条）
養嫁の儀をお用ひめけるすや氏君を御猶
子ニて乎高ニハ氏外猶子の
不足挙ニて云ヽ下学集（人倫門）
也禮記ニ云ク兄弟之子猶子也云ヽ節用集（由部人倫門）
ニ猶子養子義也一説ニ曰兄弟猶子云ヽ此時之
意則姪義也云ヽふところも兄の
あらん代誤て養子ニいへるより難しこるは墓
裏扨一の巻五ニ人子ヲ養ヲ養子ト云ハ（方）
リイウシト云ハ何ゾ他人子ヲ養ハンヲバ養子

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

ト云べし猶子トハ甥ノ事也礼記ニ甥猶子ト云ヘリ仍テ甥ヲ猶子ト云フサレハ千字文ニモ猶子比児ト讀リ但猶子ノヤウナルヒゴト点セル本アリ頗ル誤歟既ニ礼記ノ注ニ兄弟之子ヲ比己之子故曰猶子ト云ヘリ世流布ノ千字文ノ点誤多ク侍リ可有用心也猶子ノ二字ヲヒトヨム也云々とある残始終運歩色葉集由ル部ニも猶子イウ心兄弟之子といひ又千字文猶子比児ヨ表服兄弟之子猶子也云々千字文猶子比児云々李羅注下巻ニ礼記曰兄弟之子比己之子故曰猶子云々とあるを世ないふまやかせる物部茂卿の南留別志四の巻ニも猶子とハをひの事ふるを僧正ふぐふるる人の公卿の子分なふるをいふハ義ハかよふやうなれとも和文ニ遣へうそいへるハ甲乙ふ笑へし俗説辨十九の巻の類ニ誤をいへる書もいとおほし太平記十七の巻山門攻の条ニ此豊前守ハ北軍執事高武蔵守師直か猶子弟ニテとあるハ養子の事ふいへる猶又論語先進篇猶父ふとの字面も本記齊太公世家ニ猶母ハ母

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　　ガラス使用

かるて物語(モノガタリ)ともいふ母代(ハヽシロ)とも
侍息残禁裏様御猫子の
事
口遊(クチスサミ)十五丁裏
大平記上巻十四丁裏口遊(クチスサミ)クチヅサミ云ヽ又下巻廿
表口遊クチヅサミ云ヽ又四丁裏廿口遊クチヅ
サミ云ヽ吾妻鏡七の巻、七、十八の条、文治三、
常(カ)妻云ヽ為(ル)二貞女一之由在(リ)レ時、口遊(クチスサミ)矣云ヽ又五十
巻文永三、
六、一の条阿閦梨兼日、申状符合、之由及二口遊(クチスサミ)一云
ヽ愚管抄、七の巻、四丁表十四児女子ノ口遊(クチスサミ)トテこゝろ
をおもしきまゝよめり云ヽ建武年間、記十四遊(クチスサミ)
去年八月二條河原、落書云ヽ京童ノ口ズサミ
云ヽ下学集言辞門十四口ずさみクチヅサミ云ヽ節用
集久部言辞門十四口号クチヅサス云ヽ清輔集十四
久部片岳十谷の学かくれもなくふりぬ
ぬさぶるふる夫木集雑十二俊頼
釣をくるこの釣舟くるくるもれさびして左注十四
迚かゝる田をふをそこの多して山田十四こそ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

そくちびさびりてそうふこゑのしけきばかりふをそそくつゆけれどみゝてくさるこそいふをきゝてよみ侍ける

云々氏、外源氏、紅葉の賀湖月抄巻十八丁表同やそう木九十九同あふまやう十丁裏同手習廿六丁表枕草紙春曙抄巻二の巻廿四の巻七丁表同十六丁表同十二の巻十八丁裏狭衣の上巻十一丁表同廿三丁裏同廿四丁表一の下巻三丁表堤中納言、花桜折ル巻上同二丁表金葉集雑上同下連歌和泉式部集一の巻紫式部集赤染衛門集上巻公任集散木集十の巻連歌夫木集春二

あとくちびさみくちびさぶあそいへる詞不

兄弟尽ラーかゝりてをびさびめばさびあともゝ

同義之空穂、藤原の君表七丁はをゝはぶきはのゝまふそもおのからるくちあそびはさらようけたまはらてきゝ而れバ云々同春日詣表十丁また仲の帥卿宅戎のそねぶふもくちあそびもまつゝおこるふ云々と見えてくちあそびてふ古言もあきば為憲、口遊、序は顕為ニ此、巻ヲ於掌底ニ之ヲ玩ト常ニ為ニテ其ノ文ヲ於口中ニ之遊ヒ而言フ之ヲ云々百練抄十四の巻文暦元年庚子有リ十一月五日の条改元、事天福字自リ始世人不受ケ諒闇相續ク為ル其ノ徴ニ

之由口遊云ゝあるものはべくやクチアソヒと訓へらや其證をたづぬ下学集節用集運歩色葉集は口遊の字をクチズサミと訓ゝゐゝと日本記雄略記四年の条齊明記七年の条にはクチウタとよみ継躰記七年の条にはクチウタとよみこゝろき

隠士の家（イン シ）十五丁裏

後崇光院は隠居ゐておはりつゝ其家より出て後花園院皇統を継ぬるよし隠士の字面は荘子繕性篇の古之所謂隠士ハ者非ズ伏テ其身ヲ而弗ルニ見也非ズ閑ラ其言ヲ而不ルニ上出サ也非ズ下藏ニ其知ヲ而不ルニ上発ニ也時命大謬ニモトレリ下也當テ時命ニ而大ニ行ルニスヘ乎天下ニ則反ラ一ニ毎ニ迹不ル當ラ時命ニ而大窮スルスヘ乎天下ニ則源カウシ根寧ヤスヤスラ極ヲ而待ツ此レ存スルノ身ヲ之道ニ也云ゝ史記信陵君ガ傳は魏ニ有ニ隠士ト曰ヲ侯嬴ト文選六臣注本ニ左太沖ガ招隠詩は杖ヲ策ヲ招ク隠士ヲ云ゝ庾開府集五の巻の詠ル畫屏風ヲ詩は仲春徴ス隠士ヲ云ゝ同集八の巻の玉帳山銘は隠士弾ル琴仙人看ル博ヲ云ゝ南史廿巻の何點傳は故ニ世論以テ點ヲ為ス孝隠士ト云ゝ同七十五の巻の朱百年傳は是朱隠士所ノ賣須ル者ト云ゝ白氏文集五の巻は題ス楊隠士カ西亭ニ云ゝあ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

ゝゐ兄お同じ隠居のすゝハ三内口誤ゝ兄ゐ

南方（なんぱう）の御牧（ごもく）及（および）十六丁表

南朝記傳　正長元年の条ゝ七月、初帝御悩気（ごなやみ）ゝおはしますゆゑゝ世をゆづらせ給ふべき儲君ゝ

一ゝ時嵯峨ゝ御座ある南帝の玉体ゝは雲あり

りゝいへゝも叶（かな）ハぬきゝをあけきゝお同じめ

ゝて吉田、従一位守房卿の下御供ゝては産を他

ゐゝ移（うつ）させ給ふ一院ゝも太子おはしますゆ

ゑゝて云御食譲あり院の仰ゝハ大臣ち

なみゝまゐ一体和尚ゝ同じ免（ゆる）をきゝむへ

ゝゝと云ゝ人ハ世ゝふらひあき名僧ゝとゝゐハ

仙洞の皇子ゝとゝりゝへゝゝもいやゝしき服ゝ生

きゝせのふゝゝ人ゝ西の養ゐゝとゝて僧ゝふ

ゝゐふゝゝと云ゝむゐ浅一体ゝ院宣ありけるふ

和尚

ゝきゝハ木や本ゐ比（ころ）楠ゝ将て世をゝく件

の国ゝ体見ゝゝと一首ゝの序詠ゝてゐりゐふ仙

洞おきゝを憚（はばか）ゝ説ありてゝ云ゝ兄

ゐの御子十ゝふらせ給ふを帥（そち）やゝふひ君と

ゝて入内ありゝこれゝゝ南方いよゝ〳〵恨を

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4　　ガラス使用

ふくみむ男をおこすと云〻十二月南方
の東宮寛成親王吉野伊勢の間を催し又吉野
り落ありて御謀反国司小泉島兵を催しとて
みて左軍兵を催してとてもる云〻薩戒記
正長元十二廿三の条 二式人談云伊勢国司左小将満雅
依鎌倉左兵衛督持氏卿命奉取小倉宮之由有り
聞而彼鎌倉使者非実使偽称鎌倉使企謀反可
上洛仍可相憑彼宮密可奉取之由示満雅満存
実儀之由之処此事漸露顕彼使者忽逐了又小倉
宮當今在伊賀方給然而満雅謀逆不隠便早発
向可攻之由左典厩被仰付土岐黨云〻抑南
朝記傳は南方東宮寛成親王とあるは寫誤ふ
べし南朝後亀山天皇明徳三年閏十月五日
後小松院と御合躰ありて入洛の事嵯峨小倉宮
とおりまし應永廿四年四月十二日崩御あ
り御子小倉宮尊仁親王其教尊と寛成は長慶
院の御事なるを此は誤きりしなり又八日奉史
後亀山天皇和直俗通廿五の巻
松称光後小
花園の条南山巡狩録附録
の条ふと通考して知へし 敬反の字面
出処未考晋書載記符堅紀下巻
十四 其反敬之処

云ゝ貞觀政要（二の巻仕賢篇）ヨ及（テ）李密反敬（スルヿ）伏誅（ニ）云ゝ

ふとあり

競望（ケイバウ）の宮（ミヤ）

帝位を競望（ケイバウ）しめんとて小倉宮の御子

教尊ゝ諸門跡譜（中巻勧修寺の条）ヨ教尊権僧正

安祥寺務（ノ）兼帯（ス）南方、小倉宮、後村上天皇、孫（ミヲ）同

帝之玄孫（ニ）云ゝ按（ニ）同帝トハ上文ヨ尊聖大僧正、

後村上天皇第一皇子寛成親王（号（ニ）長慶院）南方、玉川宮、男

云ゝとある續（ツヾキ）ふみ後村上の御事ゝ競望は

あらそひのぞむよりて源平盛衰記（廿二の巻佐

殿漕（ニ）合三浦（ニ）条ヨ他人ノ競望（ケイバウ）アルベカラスト

ゾ申ケル云ゝ色類字類抄（七の巻、計（部）畳字門）ヨ競望ケ

イバウ云ゝ下学集（下巻言辞）ヨ競望競与覓同（ニ）

云ゝ節用集（計部）ヨ競望ケイバウ云ゝふとアル

835-4

# 松屋外集二編巻之二

目録

室町殿
足利義教将軍
御(ゴケイ)慶(ギャウカウ)行幸
行幸　御幸
徳光院
かきつめ手折
園中納言
基秀卿
花の御所
行啓

大正
8.11.24
謄寫

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

故親王

栄仁親王

くらんやうじ中納言

万機旬おこなはる　二孟の旬

新所の旬　孟夏旬

萬機旬

宸儀

閤閣

閤下　禅閤

蕙麝

蘭蕙　ふぢばかま　あらゐぎく

支は臭物をいふ　久之は酒の古名

ゑびぐんぶく

元服の名義

服の原始　雲聚

元服の年齢

元服の作法

理髪

能冠　引入

加冠

山蘆　心葉

武家

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4

ガラス使用

邉近（タマサカ）
　ひくらば
ひとりごよさ
家業（カゲフ）の事　所作（ショサ）　綾小路有俊
　綾小路の職業　鈴虫の中納言
宝算（ハウサン）等
継躰守文
院号　女院院号
　天子院号の始　後院
　皇子親王院号の例
　院号の始　公家院号の始　武家
　院号の始　院殿号　院号定
践祚
　受禅　譲位
施基（シキ）皇子　脱履
叙品　即位
　四品（シホン）
上古の例
上古　中古　下古

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

でしもちて
本譜(ホンフ)以下(イゲ)の秘抄とも
琵琶の上手
勅定(チョクテイ)
人君は不レ可レ不(ラシハアルバ)レ學と本文よもいつりし
雑訴(ザッソ)
慈鎮和尚の書置(カキオカ)きゝる物よも
愚管抄　慈圓大僧正
歌道(カダウ)のかきもの
數奇(スキ)
數奇(スキ)のみち
命(メイ)ずるのひて君は利ある
前車(ゼンシャ)の覆(クツガヘル)
仙洞御万歳の後
万歳の後　百歳の後
素意(ソイ)
庶子(ショシ)
庶母
一瞬の後
頑(カタクナ)なる聲聟(ヲヂ)

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

瞥瞜かくき
蓼蘭　氏の典侍
典侍　大典侍
郢曲
淵酔
拝趨
一變の刻
公雅卿
賢惠

範定卿
美作入道正永
箱庭の山風そゞろにて
逆浪
竹園
竹のそのふ
皇統再興
皇統の字面　再興の字面
椿葉記
椿葉之影再改
椿嶺

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

顕露ㇾ書(クキ)の也

不豫

三條前右府(イウフ)

公冬公

佛名のつけ

光範門院

加階(カイ)の事

加級(カウキフ)

階(カイ)



華頂殿侍倭學士平小山田與清稿

扶桑拾葉集抄巻第十九 椿葉記下

室町殿(ムロマチドノ)

十六丁裏

足利義教將軍之

義宣后改ㇾ義教應永元年甲戌六月十三日辛

巳御誕生云々永享元年三月十五日任ㇾ參議

今朝御改名卅六歳無左中將為ㇾ征夷大將軍云々同月

廿九日任ㇾ權大納言今日從三位云々同二年

十月十七日叙ㇾ從一位云々同三年十二月十

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4

ガラス使用

一日移二徙室町一御亭一云々同年七月廿五日任二
内大臣一云々同八月廿八日轉二左大臣一云々同
十年九月四日辞二左大臣一嘉吉元年六月廿四
日御生害（四十八歳）同月廿九日贈太政大臣号二普
廣院殿一云々尊卑分脉二源氏清和流一足利義滿
三男義教征夷大将軍右大将左大臣従一位
号二普廣院一法名道恵道号善山大居士贈太政
大臣一品嘉吉元六廿四於二赤松滿祐亭一殺之
四十八歳云々
○室町殿は源足利氏将軍の居所より称号
之諸家補任二巻一のよ室町殿云々南朝記傳上巻
ふ戊午南朝天授四年北朝永和四年よあるゝ
ゐ春三月将軍花の亭よりふるまし室町殿と
号ひ其夜の内よりの花の数をつくし植
らるゝ事ありけるよ時の人花の御所とぞ申ける
云々後愚昧記永和四年三月十日の条よ大
樹北小路亭二移徙一也元院御所一也而去年炎上
之後依レ無二御造作一大樹申請テ造営スル不日終レ功前
右大将公宣菊亭跡同混領スル之一云々薩戒記永享
五年正月一日の条よ参二左大臣殿一善廣院北小

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

路北室町、東へ云々。花、御所行幸記よ。ま征夷ぶいしやうぐんいつほんいうぞつの。満義公云々。らくやうぎやうのうちあり。近ごろはをさ荒落せらるゝ民力を費さにしてふぢちりなるをかの霊沼よりをるらば。云々。足利家官位記よ。鹿苑院義満、永和四年三月十日移徙花亭云々。同五年六月廿四日花亭、寝殿立柱上棟也。云々。普廣院殿義教、永享三年十二月十一日移徙室町御亭。云々。慈照院殿義政長禄三年二月廿

一日花亭寝殿以下立柱上棟也。同十一月十六日御移徙室町御亭。云々。文明八年十一月十三日花亭回禄。云々。應仁記一の巻、義就、政長闘乱の条、二の巻、勝元方蜂起の条、洛中大焼の条、長禄寛正記、豫章記などもみえ、足利家代々三条坊門亭、北小路万里小路亭と、室町亭とも。花居住せり。山城名勝志二の巻よ。室町殿、按ニ今室町門町、其北ヲ云ツ築山町ト、其北室町、東ヲ云ツ裏築地町ヨリ、南烏丸面ニ有リ、八幡町ト是レ営中勧請、八幡宮、在所ト云々。雍州府志八の巻古蹟門上巻よ。足利公方家、室

町殿ハ在リ今出川ノ北室町ノ築山町ノ邊ニ足利家代々
被レ住レ斯ノ所ニ因テ称ス室町殿ト其結構盡レ美康正三年
慈照院義政公又被レ営ニ新館ヲ是号ス花亭ト世ニ所レ謂
花ノ御所是也云々按ニ雍州府志ノ説ヲ有レ
たきゐあり
御幸（ゴギャウカウ）
故實拾要六ノ巻ニ御幸（ゴギャウカウ）行幸是東西河原ヘ行
幸有テ禊（ハラヘ）神事ヲ被レ行事之此行幸ヲ御禊行
幸ト云フ之東西河原ハ東ハ賀茂川西ハ桂
川之但當時是ヲ不レ被レ行也云々名目抄臨時篇

ニ御禊（ゴケイ）ソギイ有レ行幸河原ニ是レ大嘗會ノ禊（ミソギ）也云
々永和大嘗會記ニ永和元年十月廿八日天
皇鴨河ニ幸シテ大嘗會ノ神齋ノ為ニ祓（ハラヘ）シ
ム是ヲ御禊（ゴケイ）ノ行幸トいふ上古ハ鴨河ニ
かぎらざれども天長以来おほく此流ニ幄（アク）
屋ヲもうけらる云々延喜践祚大嘗祭式ニ九
天皇十月下旬臨幸川上為禊料云々類聚國
史ハ大嘗會ノ巻ニ平城天皇大同二年十月壬午
車駕禊（ミソギ）ニ於葛野川ノ縁ニ大嘗事ヲ也云々三年十月
乙亥行幸ノ近江國大津ニ修レ禊（ミソギ）ヲ以テ御（スルヲ）大嘗ニ也云々

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

嵯峨天皇ノ弘仁元年十月甲午禊於松崎川縁
大嘗事也云々淳和天皇弘仁十四年冬十月
甲申任大嘗會御禊装束司并次第司甲辰幸ノ
佐比河修禊事ヲ也云々仁明天皇天長十年十
月辛丑為大嘗會ノ将修禊事行幸賀茂河云々
神代口訣四の巻サよ、九ノ御禊大嘗會者神代
之例也御禊者大嘗以前之齋也始伊弉諾尊ノ
橘小戸祓云々源語秘決よ、葵の巻めつらし
き行幸とハ、御禊の行幸のコをいへるなり
云々西宮記臨時十北山抄八の巻江家次第十四の巻

あとなも見えたれバ考合にべし、
行幸は嚢抄二のまき、仙院渡御ヲバ御行
ト云、帝皇ノ御出ヲバ行幸ト云也、御行元ヨ
リミユキ也、行幸モ又ミユキトヨム、文集ニ
ハ幸一字ヲモミユキトヨム、行幸ニ幸ノ字
ヲ用ル謂ハ、大方ハ沙汰ナキニヤ所謂本文
アリ、天子ノ行処必有幸依之是用御行ニハ
只行ノ字ヲ用ル事小野宮北山ナド云古日
記ニ見タリトナン、云々有識問答四の巻よ、御
幸ハ院、行幸ハ天子、行啓ハ春宮、中宮、親王と

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

中ル哉、如何ン荅ッ親王ハ渡御ト申候、云々、名目
抄臨時ヨ、行幸ギヤウカウ、云々、御幸ゴカウ、
晴ハレ、御幸ミユキ、御幸ゴカウ、云々、四位、五位、装束略抄上巻ヨ、院宮他
所の帝出をも行幸と申ル哉、行幸ハ天子、御
幸ハ院、行啓ハ春宮、中宮、渡御ハ親王ゥくの
をくりとのちニ有ルこれへバ、院宮をバ行幸とハ
申さぬ事ゝ、云々、拾遺集雑秋ヨ、亭子院大井
河ヨ帝幸ありて、行幸もありぬべきおもあり。
とおぼせわかれ、とのよしそうせんときて、
小一條大政大臣、

小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひと
たびのみゆきまたなん、賀茂真淵、小倉百
首の比歌の注ヨ、今上ヨハ行幸といひ、上皇
ヨハ御幸といふこゝさだまれるとも三代實録まで
ハ、其ところハ見えず、西宮抄ヨハ記けて書カケ
りその比よりの事ゝや、云々、蔡邕獨斷ヨ、車
者宣車也、世俗謂車ヲ為ス僥倖、車駕カ所ニ至ル臣民被テ
其徳ノ澤ヲ以僥倖、故ニ曰ク幸ト也、云々、按ヨ、上代ハイ
テマシといひて、万葉集の歌をそよも、さよ
なり、中比より、ミユキといひ、又音もて行幸キヤウカウ

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

御行(ゴカウ)とハいふをありぬ山槐記治承三ノ二ノ条、
行幸之時諸社修造為(リ)レ恒例(ニ)とも見ゆ、
我君の御代十七丁表
後花園院の時代を申せる之、
嚴儀(ゲンギ)十七丁裏
嚴重(ゲンヂウ)の儀(ギ)式(シキ)といふを略せる之、酒一献の
沙汰嚴重ゐせられしよし之、
徳光院十七丁裏
上文十丁表ゐ荻原殿をバ前坊の御子ゐ、周高
西堂とや人公方へおもむかれて寺ゐなし、徒
光院とや之、云々、山城名勝志八の巻ゐ、幻居山
人随筆洛外此部に云、徳光庵、季明和上云々、さ
いは周高西堂を指ていへるなり、之、
かゐ免中路、
かゐ免と云詞ゐ、二義あり、古歌古物語ゐハ、
ほの免のごとを多く云ひ、又擄
掠ともかゐ類聚名義抄三の巻ゐ木部ゐ、椋カス
ム手ノ部ゐ、掠カスム、擄カスム、抄カスム、又ノ
巻ゐ言部ゐ、諒カスム、又ハノ巻ゐ刀部ゐ、刻カスム、云々、新韻集、加部ゐ、掠、

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

カスムル、奪之、抄、掠、云々、拉て物をおほひし
のぐる、掠（カスム）とつふ八、霞の物を立のくせるふ
ひとしけさバ之、月の名のにまよいふも、霞
の中より物の幽よやうくに見ゆるさまよ
りいへる詞之、

園中納言、十八丁表

園中納言藤原基秀卿之、諸家傳補注、四巻のま、
園基秀卿、應永廿八三廿四、權中納言、同七月、
廿二辞、五十二才、永享二正、六、二正二位同四、十二、廿六、
還任、六、四十才、永享十、十、辞、同十三、七、出家、七、十

（三オ）法名常觀、云々、公卿補任、後花園の条及、圖は
るおなじ、

こゑん王、十八丁表

故親王栄仁之、紹運録ま、崇光院、御子、栄仁親
王、法名、通智、号二有栖河一、又号二大通院一、母、重資卿、
女、云々、尊卑分脉、源氏の巻諸ま、崇光院、御子、栄
仁親王、无品号二有栖河宮一、号二大通院宮一、應永廿
三、十一、廿薨、云々、柯亭といへる名物の笛を、
仙洞へまねらせられしを、上文、十丁表ま見ゆ、
くゑんもゝうし中納言、十八丁裏

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用

勸修寺中納言藤經成卿之諸家傳、補任（二の巻）
ヨ、勸修寺經興（卿）改經成、應永廿八、三廿四伊豫
權守同七月十二日、從三位、同七月廿、權中納
言、廿六、云々、同卅二、六、七辭、同卅五、三、十一、還
任、權中納言、廿三、同改名經成、永享九、正、五、
從二位、同三月廿四日薨、四十、云々、公卿補任
後花園院条ヨ、永享九年記、權中納言正三位藤經
成、四十、正月五日叙從二位、三月廿四日薨、四十
二、云々、系圖ヨ、權大納言經豊子云々、
○勸修寺（下本巻）ヨ、勸修寺、醍醐四右
大臣定方建立、謂之廿五大寺寺也、云々、以呂
波字類抄（六部諸寺門）、勸修寺、格云、贈皇后在
生之日、為令誓護天皇陛下所建立也、有堂五
宇、御願堂五大尊等身彩色、如意輪件堂奉為
延喜天子、母后以外祖父宮内少輔宮道弥益
所被造立也、本堂、四天件堂、本
施主宮内少輔宮道氏建立、云々、傳云、件堂彼
弥益朝臣舊屋之跡、云々、天喜年中已以焼亡、
故大藏卿伏卿被造立西堂、件堂康保元年七
月廿一日防中納言朝成故、右丞相定方府下、

奉為之母尊霊延喜年中所被建立也天慶以
来毎及忌辰期限四日而開八講云々元亨釋
書十六の巻に釋兼俊居東大寺学唯識無真言嘗
建勸修寺云々扶桑略記廿三の巻に延喜五
年九月廿一日以勸修寺勅為定額寺云々延
喜主税式上巻に九勸修寺五大尊燈油一百八
斗供料白米卅三斛六斗並近江國以正税交
易并餝備毎年十月以前送納寺家云々諸門
跡譜中巻に勸修寺西西天皇御願書或記曰延
喜帝后母贈太政大臣高藤公女胤子草創也
云々山城名勝志十七の巻宇治郡部に勸修寺在小野
村南真言門主東大寺務云々此か古書所見
枚挙遑あらすクワシユウンと訓至口授と以宮
道弥益の女の子今昔物語舊本廿二の巻第七話に小世
継あとに風流の物語有り
いしく 十八丁裏
已次已次之既に上文に注ス
万機旬おこなひる 十八丁裏
年中行事歌合に旬とよめるかくべらきの政に
はそみわたる比之比八四月一日の旬のゆふ

てはり、夏冬の季はあらまほしき始め、酒を
もまた、政をきこしめしては、旬はさまざまの
義あり、内裏(ダイリ)儀式(ギシキ)など作られて、始て南殿(ナンデン)に出
させおはしまして、彩色(サイシキ)あの旬とやいふ位ほは
せおひて、政を除(ノゾ)めおはします、万機の旬とやいふや、
また四月の旬は、内侍(ナイシ)扇をもちて、上達部(カンダチメ)など宣(ノ)
旨(ムネ)へひきまつきてうけとる、作法(サホウ)など有(ア)
るや、云々、公事根源、第十六則、孟夏(マウカ)の旬(シュン)の条は、芒(ノギ)か
天子夏冬の季の政(マツリゴト)始まる、臣下は沙汰(サタ)を
もまた、政をきこしめしては、旬は、元(ハジメ)の旬は、若(モ)し有(ア)

内裏(ダイリ)儀式(ギシキ)しく造られて、始て南殿(ナンデン)に出
せおはしまして、新(シン)所(ショ)の旬(シュン)とやいふ位ほは即(スナハ)ち、
始て政を除(ノゾ)めおはします、万機旬とやいふ、十一月一
日冬至(トウジ)まであるる年行はるゝ也、朝旦(テウタン)の旬と
や、この夏冬のをば、二孟(マウ)の旬(シュン)ともいふ也、云々、
塩嚢抄(エンノウセウ)五巻の旬、事、是は四月一日にあたる事
也、天武天皇十二年に始(ハジ)めて、文武の官人、
織冠(シキカン)の任人向(ムカ)て、孟月に必ず朝参(テウサン)すと、云々、
無御出時は、宣陽殿(センヤウデン)の平座(ヒラザ)にして行(オコナ)ふと

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』　請求記号 835-4
ガラス使用

ヤラン旬トハ夏冬十月一日ノ季ノ改マル初ニ、臣下御酒ヲタマヒ政ヲ聞食ス也旬ニ様々ノ義アリ内裏新ク造ラレテ始ニ南殿ニ行ハセ給ヲバ新所旬ト申也位ニ即セ給テ始テ政ニ望給ヲバ万機旬ト申ニヤ此四月ノ旬ト申也此旬ニハ内侍扇ヲ持テ上達部ニ賜ヘバ膝ヲツキテ請取給ツ作法ナト侍ルトナン冬ハ十月朔日也云々年中行事秘抄四月一日の条は旬ノ事無御出時ハ宣陽殿ノ平座ノ事自御所被仰下無御出依例可行之由日本紀ニ云天武天皇十二年始之詔曰諸文武官人及畿内有位人等四孟月必朝参儀制令ニ云若逢雨天容及泥濘並停弘仁式ニ云天皇御大極殿不御南殿之時於宣陽殿有平座里内ニハ用紫宸殿云々按旬の作法九條年中行事小野宮年中行事西宮記十月部臨時ハ北山抄ハの巻九の巻江家次第六の巻助無智秘抄朝旦冬至部類記などよくは し小右記永観二年十月十七日条申時出御南殿初機之日也云々令撤公卿臺盤還御時刻無番奏依非ニ旬日也先例如此也云々愚昧記仁安三年四月七日の条玉海治承四年十一月十三の条は此

日於福原離宮新造皇居被行万機旬云々吉
記治養四年十一月三の条ニ今日万機旬也御即位以後
雖忩可被行連々相礙自然延怠豊明節會以前
必出南殿以所被行也依未被行旬不出御豊
明節會近例必不出御故也
○萬機の字面は尚書皐陶謨ニ兢々業々一
日二日萬幾注ニ兢々戒慎業々危懼畿微之也
言當戒慎万事之微云々疏注疏本四の巻ニ易繫辞
云幾者動之微故畿為微也一日二日之間微
者乃有万事言當戒慎万事之微々者尚有万

則大事必多矣且微者難察察則労神以言不
可逸耳馬王皆云一日二日猶日日也云々列
子黄帝篇ニ放萬機舎宮寢云々漢書百官公
卿表上巻ニ相國丞相皆秦官金印紫綬掌丞天
子助理万機云々後漢書馮衍傳上巻ニ以達萬
機変云々注ニ事非一途故曰万機之変也書
曰一日二日萬機云々同邕讓傳ニ旦夙精於
万機云々貞觀政要一政體篇ノ巻ニ豈得以一日万
機独断一人之慮也注ニ虞書曰一日二日万
機機與幾同言日之至淺而事之至多也云々

国立国会図書館　タイトル『松屋外集』 請求記号 835-4
ガラス使用